

多根総合病院

2022 年度年報

目次

病院概要	2
内科	4
総合診療内科	5
循環器内科	5
消化器内科	7
脳神経内科	9
外科	10
整形外科	14
脳神経外科	15
小児科	17
泌尿器科	18
皮膚科	18
耳鼻咽喉科	19
形成外科	20
歯科	21
麻酔科	22
放射線診断科	22
放射線治療科	25
救急科 (ER)	27
腫瘍内科	27
DS (日帰り手術) センター	28
看護部	30
薬剤部	32
医療技術部 中央検査部門	34
医療技術部 臨床工学部門	35
医療技術部 リハビリテーション部門	36
医療技術部 栄養管理部門	38
医療安全管理部	40
感染制御部	41
卒後臨床研修センター	44
事務部	44
各科医師スタッフ 資格一覧	48
学会発表	60
執筆・論文	73

〒550-0025 大阪市西区九条南 1-12-21

TEL : 06-6581-1071 FAX : 06-6581-2520

交通 : 電車

JR 環状線大正駅

または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車

または阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分

大阪シティバス

なんば駅前 (60) 天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前 (88) 天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前 (107) 弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【病院概要】

院長	丹羽 英記
開設日	1949 年 (昭和 24 年) 10 月 (1969 年 7 月に総合病院の名称承認)
病床数	304 床
標榜科目	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科・疼痛緩和内科・外科・呼吸器外科・消化器外科・内視鏡外科・乳腺外科・肛門外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科・婦人科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・臨床検査科・救急科・小児科・皮膚科・麻酔科・歯科・神経眼科
土地・建物 (㎡)	敷地面積 : 5,514.29 ㎡ 延床面積 : 23,389.81 ㎡
指定・認定関係	大阪府がん診療拠点病院、厚生労働省指定臨床研修指定病院、災害拠点病院 臨床検査技師実習指定病院、薬剤師実務研修施設、看護学校実習指定病院 救急告示病院 (二次救急指定病院)、病院群輪番制病院、マンモグラフィ検診施設 大阪公立大学医学部臨床実習施設、大阪医科薬科大学臨床教育協力機関 兵庫医科大学第 6 学年次「自由選択実習」協力施設 新専門医制度専門研修プログラム内科領域基幹施設 日本内科学会認定教育関連施設、日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設、大阪府肝炎専門医療機関 日本大腸肛門病学会認定施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 (連携施設)、日本緩和医療学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳神経外科学会専門医研修施設、日本脳卒中学会専門医制度研修教育施設 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター、日本神経学会認定教育施設 日本整形外科学会認定医制度による研修施設、日本手外科学会関連研修施設 日本泌尿器科学会拠点教育施設、日本麻酔科学会認定病院 日本形成外科学会認定施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設 (咽喉系) 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設 日本医学放射線学会 放射線科専門医修練機関 日本放射線腫瘍学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規定認定教育施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設

基準関係	<p>一般病棟入院基本料（7対1）、臨床研修病院入院診療加算、救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算、診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算（15対1）、急性期看護補助体制加算（25対1）、夜間100対1急性期看護補助体制加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算1、感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、退院支援加算1、退院支援加算2、救急搬送患者地域連携紹介加算、救急搬送患者地域連携受入加算、呼吸ケアチーム加算、病棟薬剤業務実施加算、データ提出加算2（イ）、特定集中治療室管理料3、ハイケアユニット入院医療室管理料1、緩和ケア病棟入院料、短期滞在手術基本料2、歯科外来診療環境体制加算、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料1、がん患者指導管理料2、糖尿病透析予防指導管理料、院内トリアージ実施料、夜間休日救急搬送医学管理料、外来リハビリテーション診療料、外来放射線照射診療料、ニコチン依存症管理料、開放型病院共同指導料、がん治療連携計画策定料、薬剤管理指導料、診療情報提供料（I）の検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報、医療機器安全管理料1、医療機器安全管理料2、歯科治療総合医療管理料、在宅療養後方支援病院、造血器腫瘍遺伝子検査、HPV核酸検出、検体検査管理加算（I）、検体検査管理加算（IV）、ヘッドアップティルト試験、神経学的検査、センチネルリンパ節生検、遠隔診断、画像診断管理加算2、CT撮影及びMRI撮影、冠動脈CT撮影加算、心臓MRI撮影加算、乳房MRI撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（I）、脳血管疾患等リハビリテーション料（II）、運動器リハビリテーション料（I）、呼吸器リハビリテーション料（I）、がん患者リハビリテーション料、歯科口腔リハビリテーション料2、処置の加算、手術の加、CAD/CAM冠、乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2、骨移植、経皮的冠動脈形成術、経皮的ステント留置術、ペースメーカー移植術及び交換術、大動脈バルーンパンピング法、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波膀胱石破碎術、腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、膀胱水圧拡張術、人工尿道括約筋植込・置換術、点数表手術の通側5及び6の手術、輸血管理料I、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、麻酔管理料（I）、放射線治療専任加算、外来放射線治療加算、高エネルギー放射線治療、1回線量増加加算、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療加算、体外照射呼吸性移動対策加算、直線加速器による定位放射線治療、定位放射線治療呼吸性移動対策加算、病理診断管理加算I、口腔病理診断管理加算I、クラウン・ブリッジ維持管理料、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術、組織拡張器による再建手術（乳房）、入院時食事療養（I）</p>
第三者評価	財）日本医療機能評価機構認定病院

(2023年3月現在)

◆内 科

【部署概要】

当院の内科は総合診療内科（感染症内科、糖尿病内科）、循環器内科、消化器内科の各科が協力して入院診療を行う体制になっている。それに加えて外来では呼吸器内科、代謝内分泌内科および肝臓内科の専門の医師が診療に従事している。各科の医師は専門性を高めつつ、内科全般を診ることで、多根総合病院の特色を出している。研修医を修了した後も専攻医として内科に籍を置いて専門性を高める若い医師や、大学医局からの医師派遣とがあいまって内科医師数が年々増加していることは大変喜ばしい。どんどん新しい分野にチャレンジしていく風土を築いていきたい。いまだ新型コロナウイルス感染症は日本でも蔓延し猛威を振るっている。それに対して院内でコロナ病床を確保し、病院全体で一丸となって対応している。救急を止めずにさらにコロナ診療を行うことは非常に困難であるが、職員が協力して診療にあたり地域基幹病院としての社会貢献ができたと考えている。地域の救急を断らない病院としてこれからも社会が必要とする医療を提供していきたい。

【診療・部署体制】

【スタッフ】

瓦林 孝彦	副院長／内科統括部長
浅井 哲	消化器内科・内視鏡センター部長
福田 圭祐	循環器内科部長
高宮 みさき	感染症内科部長
斎田 天	循環器内科副部長
新田 洋介	内科副部長
赤峰 瑛介	消化器内科副部長
藤本 直己	消化器内科副部長
一ノ名 巧	消化器内科副部長
中尾 栄祐	消化器内科医長
山崎 玲子	循環器内科医長
松尾 健司	医局員
塚本 拓也	医局員
神保 仁美	医局員
大舘 秀太	医局員
田中 佐和	医局員
高木 康宏	医局員
藤田 裕真	医局員
西垣 圭祐	医局員
小林 潤一	医局員
久松 健人	医局員
島 佳弘	医局員
三木 文雄	特別顧問

【特色・トピックス】

今年度は念願の糖尿病内科に糖尿病専門医の新田洋介先生を常勤で迎えることができた。これにより外科や整形外科の術後の血糖管理などのコンサルトがスムーズに行なえるようになった。

【診療・部署実績】

各科の診療実績を参照

◆総合診療内科

【部署概要】

内科は臓器別診療科に細分化される方向にあるが、特に初診の患者に対しては幅広い視野で診察に当たることが必要である。内科疾患は多岐に渡るが種々の訴えで来院される患者に幅広く対応し、鑑別診断を行い、的確な治療を行っていきたいと考えている。具体的には、本院では消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病内科などの専門診療科があるので、総合診療内科では、主としてそれ以外の内科疾患、未だ診断のついていない疾患、臓器を特定できない疾患を取り扱っている。入院診療においては、肺炎などの種々の感染症、不明熱、内分泌代謝疾患、専門診療を必要としない心疾患や呼吸器疾患を扱っている。また昨年に引き続き院内感染対策をした上で新型コロナウイルス感染症の診断や治療に当たっている。

【診療・部署体制】

【スタッフ】

高宮 みさき	感染症内科部長
朴 将輝	医長
濱 典男	非常勤
福田 大受	非常勤
並川 浩己	非常勤
三木 文雄	特別顧問

【特色・トピックス】

2022年度も新型コロナウイルス感染症は収束には向かっていない。2月の第6波からデルタ株よりオミクロン株が主流となった。8月の第7波や年末・年始には第8波の患者のピークがみられた。各科の医師の協力のもと院内感染予防、入院治療、発熱外来、新型コロナ検査センターを運営することができた。また、府の感染症フェーズに合わせてコロナ病棟やベッド数の変更等に対して快く協力をいただいた医師、看護師を含む職員全員に対して感謝の意を表したい。

【診療・部署実績】

感染制御部の診療実績を参照

◆循環器内科

【部署概要】

当院では下記の疾患群に特に力を入れて診療している。

1. 胸痛を主訴とした狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患
2. 下肢の疼痛や間欠性跛行の原因となる閉塞性動脈硬化症
3. 息切れを主訴とするような慢性心不全、心臓弁膜症
4. 動悸・失神などの原因となる不整脈
5. 動脈硬化を促進する高血圧、脂質異常症、糖尿病

入院では心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、下肢動脈血管形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、アブレーションなどを中心とした侵襲的治療から、最近高齢化に伴い急速に増加してきた慢性心不全の治療にも積極的に取り組んでいる。また、検査では冠動脈CT、心エコー図や心臓シンチグラムを駆使して正確な診断に努めている。

【診療・部署体制】

緊急カテーテル検査はオンコール体制にて対応している。

増加する心不全に対して治療体制を整備している。

侵襲的な治療や検査は常に安全に留意している。

【スタッフ】

瓦林 孝彦 副院長／内科統括部長

福田 圭祐 部長

齋田 天 副部長

山崎 玲子 医長

塚本 拓也 医局員

田中 佐和 医局員

西垣 圭祐 医局員

【特色・トピックス】

年々心不全患者の入院数は増加している。社会の高齢化が進んでいることが原因と考えられる。新規のペースメーカーの植え込みや経皮的下肢動脈形成術も増加してきた。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で病床の利用や救急が制限された時期があったために緊急の冠動脈造影や経皮的冠動脈形成術の症例が減少した。冠動脈 CT 検査は外来での狭心症の診断や術後の再狭窄の診断に利用され増加傾向にある。来年度は新型コロナウイルスが感染症法の第 5 類になり、行動制限がなくなるので急性冠症候群が増加するのではないかと考えている。また不整脈治療に関しては積極的に取り組んでいきたい。

【診療・部署実績】

入院患者数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
循環器疾患患者退院数	395	357	330	403	371
心不全	122	135	142	154	172
慢性虚血性心疾患	152	132	88	99	50
急性冠症候群	39	33	33	77	48
閉塞性動脈硬化症	22	11	20	27	34

循環器疾患の検査件数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
冠動脈造影	183	156	116	146	118
緊急冠動脈造影	44	40	37	71	60
経皮的冠動脈形成術	70	67	42	58	34
緊急経皮的冠動脈形成術	29	28	31	55	28
下肢造影検査	20	14	22	40	41
経皮的下肢動脈形成術	19	14	22	37	33
ペースメーカー植え込み（新規）	18	14	5	11	19
ペースメーカー電池交換	3	3	4	3	4
カテーテルアブレーション				10	2
心エコー検査数	3536	3266	3401	3694	3775
トレッドミル	88	49	44	24	16
ホルター心電図	249	204	172	188	151
冠動脈造影CT検査数	85	80	70	103	134
下肢動脈造影CT検査数	11	16	9	22	17

◆消化器内科

【部署概要】

当院の消化器内科は、内視鏡センター、消化器センターに所属し、指導医・専門医・認定医資格を持つスタッフ医師と後期研修医（レジデント）で構成されており、消化器疾患（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵）を緊急例から慢性疾患・癌治療まで幅広く診療しております。内視鏡検査・治療は、スクリーニング検査から高度な専門治療まで年間 10,000 件以上行っています。

癌研有明病院で修業を積んだ消化管専門の医師や国立がんセンター中央病院で修業を積んだ肝胆膵専門の医師が在籍し、最良の医療の提供と医師の教育に力を入れています。

【診療・部署体制】

消化管：2022 年度は上部消化管内視鏡検査を約 6,600 件、下部消化管内視鏡検査を約 2,600 件行っています。消化管早期癌（食道・胃・大腸）に対する拡大 NBI 内視鏡診断・ESD を大きな偶発症なく安全に行っています。また潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物学的製剤、分子標的治療薬、タクロリムスや CAP 療法などの専門的治療も含め行っております。小腸内視鏡（カプセル内視鏡およびバルーン内視鏡）も行っており、全消化管を精密検査できる環境が整っています。

肝：一般的な肝疾患診療に加え超音波用造影剤（ソナゾイド）を用いた造影エコーによる肝臓癌の精査も施行しております。近年目覚ましい進歩を遂げたウイルス性慢性肝炎に対するインターフェロンフリーの抗ウイルス療法をはじめ、肝臓癌に対するラジオ波焼灼術（RFA）や肝動脈化学塞栓術（TACE）を行っております。また肝硬変患者に生じる食道胃静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術/硬化療法（EVL/EIS）、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術（BRTO）や、腹水患者に対する腹水濾過濃縮還元療法（CART）、腹腔-静脈シャント（Denver シャント）も行っています。

胆膵：2022 年度は総胆管結石・慢性膵炎・胆管癌・膵癌などに対する ERCP を年間 350 件以上行っています。同疾患や膵嚢胞性病変に対するコンベックス型超音波内視鏡（EUS）による観察や EUS-FNAB（EUS ガイド下穿刺吸引細胞診-組織診）や EUS-BD（EUS ガイド下胆道ドレナージ）等の先進的な医療も行っております。また SpyGlass というディスプレイ細径胆道鏡を用い、今まで内視鏡的に除去することが困難であった巨大結石や破砕困難な硬い結石なども SpyGlass と EHL（電気水圧衝撃波結石破砕術）を用いて除去できるようになりました。SpyGlass は胆管癌・膵癌・原因不明の胆膵管狭窄の診断にも有用です。

消化器内視鏡：2022 年度は 10,000 件以上の消化器内視鏡検査・治療を行いました。平素より通常のスクリーニング検査をはじめ、上記の通り内視鏡治療として食道・胃・大腸の早期癌に対する ESD、食道胃静脈瘤に対する EVL・EIS、胆膵疾患に対する ERCP・EUS・EUS-FNA・EUS-BD・SpyGlass、消化管・胆管メタリックステント留置術などの専門的かつ高度な治療を幅広く行っております。

緊急体制：24 時間 365 日、緊急内視鏡ホットラインで救急隊や近隣の病院・医院と直接連携しており、消化管出血や消化管異物、S 状結腸軸捻転、急性胆管炎などの緊急内視鏡を要するような疾患に数多く対応しております。急性期病院であり「断らない救急」をモットーにしている当院の性格上、吐下血/腹痛を主訴とした消化管出血/急性腹症などの緊急疾患が救急車で多く運ばれてきます。特に消化管出血の救急搬送は大阪市内 No.1 です。緊急腹部疾患に対して、当院の特長である科同士の連携の良さを活かし、消化器内科/消化器外科/急性腹症科が連携してチーム医療を行い、緊急処置/内視鏡治療/手術などを行っています。

【特色・トピックス】

多数の専門外来（レディース内視鏡外来、低侵襲がん内視鏡治療外来、胆膵内視鏡外来、潰瘍性大腸炎外来）を開院しており、幅広い患者様に高度に専門化した診療を提供しております。苦痛のない内視鏡を目指しており、上部は嘔吐反射（えずき）の少ない経鼻内視鏡による胃カメラを行っています。下部は意識下鎮静法と UPD、さらに「浸水法」と高い内視鏡操作技術による無痛の大腸内視鏡検査を提供しています。

消化管早期癌に力を入れており、NBI や色素を併用した拡大内視鏡検査や超音波内視鏡(EUS)を用いた精度の高い診断から、高度な技術を要する ESD による内視鏡的早期癌切除を重篤な偶発症なく安全に行っております。

胆膵疾患に対する検査・治療（ERCP 関連手技）も得意分野であり、緊急胆管ドレナージ・総胆管結石除去・膵管内結石治療・胆管癌/膵癌に対する精査および減黄治療を中心に行っております。SpyGlass と呼ばれるわずか径 3mm のディスポーザブル胆道鏡も導入しているため、通常内視鏡的に除去することが困難な胆管結石も SpyGlass+EHL(電気水圧衝撃波)を用いて治療できるようになっております。胆管癌や膵癌の早期発見や精密診断の目的にコンベックス EUS を用いた観察や EUS-FNA (超音波内視鏡ガイド下-穿刺細胞診・組織診) も行っており、また interventional EUS として EUS-BD (超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ：消化管-胆道瘻孔形成術) も行っております。

上下部内視鏡検査でも出血源を同定できない消化性出血やクローン病などに対する小腸カプセル内視鏡や小腸バルーン内視鏡検査・治療も行っております。また同内視鏡は消化器手術後の特異な解剖（Roux en-Y 法再建、Bilroth-II 法再建、膵頭十二指腸切除後）を有する患者様に対する従来困難であった ERCP を可能にし、以前は手術が必要であった患者様に低侵襲な治療を提供できております。

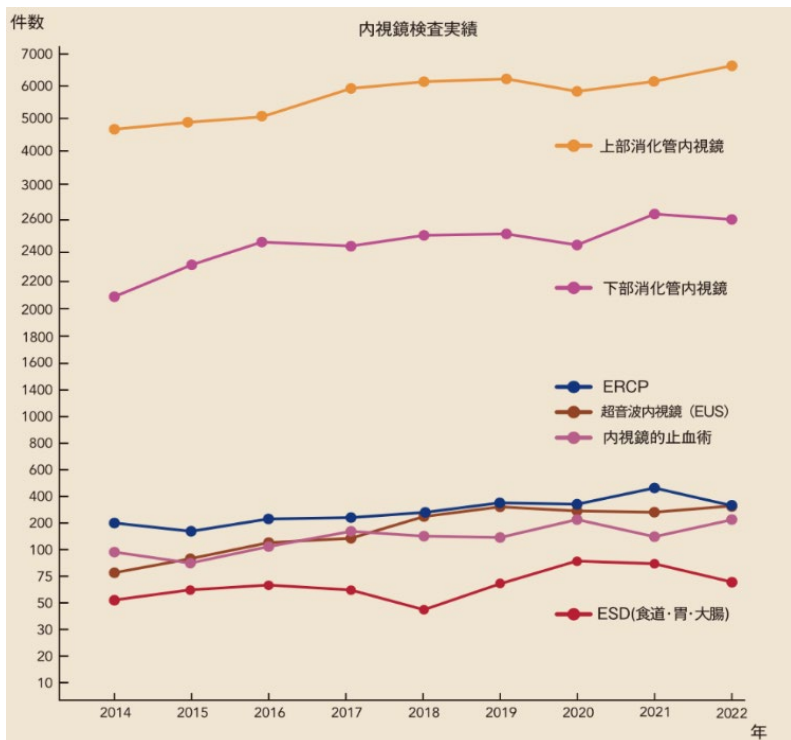
外来においては初診時には可能な限りその日に診断できるよう心がけています。また待機の検査日程も患者様のご都合を最大限考慮し短期間で診断までつけられるよう意識しております。治療については病状に対してだけでなく、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を考慮し治療方法を決定しております。

消化器内科・外科合同カンファレンスや合同回診など、消化器外科との連携が良いことも大きな特徴の一つであり、診断から治療まで常に最善の医療を最善のタイミングで患者様に提供できるよう多角的に診療を行っております。

<次年度方針・将来展望・目的・目標>

当院は以前より上下部消化管内視鏡検査において患者様の苦痛を最小限にするべく努力をして参りました。一方で消化管癌に対する ESD や、胆膵領域における超音波内視鏡や胆道鏡（SpyGlass）を用いた高度な検査・治療にも力を入れてきました。2022 年度は癌研有明病院へ国内留学し消化管癌診療を学んだ医師も消化器内科チームへ戻り、2023 年度には現在国立がんセンター中央病院へ国内留学している胆膵を専門とする医師も戻り消化器内科の診療能力はより一層強化されます。今後も、消化器外科・消化器内科・放射線科・腫瘍内科・緩和ケア科が協力しながら、低侵襲・高 QOL な治療をベストのタイミングで患者様に提供し続けます。

【診療・部署実績】



RFA・・・約 20 件
TACE・・・約 30 件

◆脳神経内科

【部署概要】

脳卒中、てんかん、髄膜炎などの神経救急疾患を中心に、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの慢性疾患を含めて神経疾患全般にわたって診療を行っている。特に脳卒中症例は24時間365日体制で脳神経外科と共同で神経・脳卒中センターを運営しており、脳神経内科は主に虚血性脳卒中(脳梗塞、一過性脳虚血発作)の入院診療を担当している。リハビリテーション科・看護師やMSWなどのコメディカル・多根脳神経リハビリテーション病院と連携し、急性期だけでなく回復期リハビリテーションまで含めた診療を行っている。一般外来は、完全予約制で月曜日から金曜日まで午前もしくは午後に行っており(火曜日のみ午前と午後)、他病院からの紹介や他科からの診察依頼に対しては適宜対応している。

【診療・部署体制】

【スタッフ一覧】

学術顧問：柳原 武彦

脳神経内科部長：青池 太志

脳神経内科部長：白石 翔一

脳神経内科副部長：吉田 智子

脳神経内科医長：北村 絵未

脳神経内科医長：田中 なつき

脳神経内科医員：江並 朋美

脳神経内科医員：小玉 大地

脳神経内科医員：國方 桃代

脳神経内科医員：仲辻 有佑

【特色・トピックス】

当科の入院症例は、脳血管障害、てんかん、片頭痛、めまいなどの機能性疾患、髄膜炎・脳炎などの感染性疾患、といった神経救急疾患が大半を占めている。その中で、脳卒中診療は超急性期から回復期までの診療に携わっている。発症直後の急性期血行再建療法は積極的に行っており、rt-PA 静注療法や血管内治療も多数行っている。状態が安定した後も、回復期リハビリテーションの適応がある症例は大多数が多根脳神経リハビリテーション病院で、療養型病院の適応がある症例は一部が多根第二病院で対応できるため、脳卒中診療の全ての経過を網羅することができる。

【診療・部署実績】

外来患者延数…5,765 人

入院患者延数…11,765 人

◆外科

【部署概要】

一般外来は、午前診 9:00~11:30 (月曜日から土曜日)、午後診 13:00~15:00 (月曜日、水曜日) で、緩和ケア外来 (水曜日午前)、こころの外来 (火曜日午前)、日帰り手術センター外来 (月曜日から木曜日、土曜日の午前) も行なっている。手術日は月~土曜日毎日であるが、救急病院であるため昼夜を問わず緊急手術に対応している。また疾患別にグループを作り、幅広い知識の習得と最新の治療に対応している。

【診療・部署体制】

【スタッフ】

上部消化管(森)

下部消化管 (小川淳宏、小川稔)

肝胆膵 (細田)

乳腺、内分泌 (西)

日帰り手術 (丹羽、上村, 小川稔)

緩和ケア (高橋、柄池)

【特色・トピックス】

2022 年度の異動は 4 月に副院長の刀山五郎が老健施設てんぼーざん施設長に就任、同じく 4 月より今中孝、實近侑亮が専攻医として加わった。本年度も消化器外科手術件数は 1461 件と大阪大学消化器外科関連施設のなかで最も手術症例数の多い施設となった。なかでも鏡視下手術の件数が年間 660 件と非常に多いのも特長である。

急性腹症患者については他施設にない急性腹症科を設置して、経験豊富なスタッフが 365 日 24 時間体制で緊急手術を行っている。救急隊との間に急性腹症ホットラインからを設け、大阪市全域より急性腹症患者の受け入れを行っている。鏡視下手術に熟練したスタッフが多く、夜間の緊急でも積極的に鏡視下手術を行っている。

大阪府がん診療拠点病院として、悪性腫瘍の手術も多数行っている。胃癌、大腸癌については腹腔鏡下手術を積極的にとりいれている。特に大腸癌では待機手術の 90%は腹腔鏡下に行っており近年では東大阪地区からの紹介も増加している。肝胆膵領域では膵癌の手術の手術件数が急速に増加している。

緩和ケア科では、がんを患い、身体と心に苦痛のある患者様を対象に、きつこう会理念「愛を原理とし、秩序を基盤とし、進歩を目的とす」に則り、緩和ケアを必要とする患者様、ご家族様の思いに寄り添い、身体と心の痛みを和らげ、その人らしい生活が出来るように支援している。

院内にてがん治療中の患者様の身体と心の苦痛に寄り添うのが緩和ケア科である。治療中の患者様は、がんサポートチームとして介入し、治療を卒業された患者様は緩和ケア病棟にて症状緩和を行っている。また、他院にてがん治療を卒業された患者様は、緩和ケア外来を通じて、症状緩和のための通院や、入院受け入れを行っている。

また、大阪府がん拠点病院として、緩和ケア研修会 (PEACE プロジェクト) を年に一度開催している。その他、大阪国際がんセンターとの地域連携カンファレンスを定期的に実施し、なにわ緩和ケアカンファレンス、大阪緩和ケア連携カンファレンスへも参加している。

日帰り手術については「日帰り手術センター」の頁を参照していただき。また、手術だけでなく、教育、研究にも力を入れており、1 年を通して多数の初期研修医、後期研修医が当科で研修を行っている。また、学会発表、論文執筆もスタッフ、後期研修医から初期研修医に至るまで多数行っており、国際学会での発表も行っている。

民間病院としては希な、多数かつ専門性の高いスタッフが揃っており、今後も大阪市西部ブロックの基幹病院として、より多くの症例を受け入れていきたい。

【診療・部署実績】

<外科>

項目	症例数
消化器外科手術症例数	1,461
そのうち全身麻酔による手術症例数	1,361
そのうち全身麻酔以外による手術症例数	100
腹腔鏡（胸腔鏡）手術症例数（分類 A のうち、原疾患を問わず）	660
食道	4
食道癌（接合部癌扁平上皮癌含む）	1
胸部食道切除	1
胸腔鏡	1
食道その他	3
胃・十二指腸（※十二指腸乳頭部癌は胆道癌へ）	51
胃癌	38
胃全摘	13
開腹	13
幽門側胃切除（PPG、分節切除含む）	21
開腹	13
腹腔鏡	8
その他胃切除（局所切除／楔状切除など）	1
	1
その他胃癌手術（バイパス／審査腹腔鏡など、開腹／腹腔鏡を問わず）	3
胃・十二指腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
胃・十二指腸粘膜下腫瘍（GIST 以外、開腹／腹腔鏡を問わず）	3
胃・十二指腸その他（潰瘍／病的肥満／胃瘻など、開腹／腹腔鏡を問わず）	9
小腸・大腸・肛門	450
結腸癌	80
切除術	73
開腹	15
腹腔鏡（RPS を除く）	58
非切除（人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど）	7
直腸癌（肛門癌含む）	45
切除術（肛門温存）	23
開腹	1
腹腔鏡（RPS を除く）	22
切断術（肛門非温存）	5
開腹	1

腹腔鏡（RPSを除く）	4
非切除（人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど）	17
小腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
虫垂炎（開腹／腹腔鏡を問わず）	175
開腹	1
腹腔鏡（単孔式、RPSを含む）	174
イレウス（開腹／腹腔鏡を問わず）	52
クローン病（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
切除術	1
腹腔鏡（単孔式、RPSを含む）	1
痔核	63
痔瘻	4
結腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	17
直腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	8
肛門その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	3
小腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
肝・胆・膵	322
肝細胞癌	2
肝葉切除／肝三区域切除	1
開腹	1
その他の切除術	1
腹腔鏡	1
転移性肝癌	10
肝区域切除	1
開腹	1
肝部分切除	9
開腹	7
腹腔鏡	2
胆嚢癌	1
胆摘	1
開腹	1
肝門部領域胆管癌	1
肝葉切除／肝三区域切除	1
開腹	1
遠位胆管癌（中下部胆管癌）	4
膵頭十二指腸切除	3
開腹	3

その他切除	1
開腹	1
十二指腸乳頭部癌	1
膵頭十二指腸切除	1
開腹	1
膵管癌	10
膵頭十二指腸切除	6
開腹	6
尾側膵切除	2
開腹	2
非切除（バイパス・審査腹腔鏡など）	2
胆石症・胆嚢炎・胆嚢ポリープなど	290
開腹胆石症手術	2
腹腔鏡下胆石症手術（単孔式、RPSを含む）	288
総胆管結石症	1
腹腔鏡	1
肝胆膵その他	2
開腹	2
肝葉切除／肝三区域切除（原疾患を問わず）	1
肝区域切除（原疾患を問わず）	1
肝垂区域切除（原疾患を問わず）	1
膵頭十二指腸切除（原疾患を問わず）	11
尾側膵切除（原疾患を問わず）	2
ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど）	529
開腹ヘルニア根治術	523
腹腔鏡下ヘルニア根治術	6
腹膜炎・その他	103
他科手術	2

<緩和ケア>

緩和ケアチーム介入算定件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
81	59	105	147	74	72	97	99	120	177	151	154

入院精神療法算定件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
13	13	29	56	38	33	54	48	69	25	26	48

◆整形外科

【部署概要】

整形外科では骨折や靭帯損傷など一般的な外傷、スポーツ愛好家からハイレベルアスリートまで幅広いスポーツ障害、年齢を重ねるごとに痛みが出てくる腰や関節の変性疾患、骨粗鬆症等に対して治療を行っています。

【診療・部署体制】

〈 外 来 〉

2022年度は1ヶ月平均1,288名、1日平均52.6名でありました。受付時間は午前10時までとなっております。書類記入補助などの業務も加わって、外来の待ち時間が比較的短くなりました。

〈 入 院 〉

2022年度は1日平均28.9名であり、平均在院日数は13.7日でありました。予定入院の増加や、MSWの協力により比較的短期の入院が多くなってきています。現状を継続したいと思います。

〈 手 術 〉

2022年度は704件の手術件数があり、1ヶ月平均58.6件となりました。手術内容としては下記の通りの内訳となります。治療内容としてはあらゆる外傷に加え、スポーツや関節鏡手術が増えたものになっています。今後も学会・研究会等の発表、投稿に加え十分な知識・経験に基づく医療を発展させたいと考えています。

【特色・トピックス】

専門外来として肩関節・肘関節の障害、肩・肘スポーツ障害を診療する『肩・肘・スポーツ外来』と、スポーツに関わる障害を体幹・下肢も含めて診療する『スポーツ外来』『人工関節(股・膝)外来』を行っています。

【診療・部署実績】

2022年手術実績

手術総数	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	その他
704	33	73	53	482	1	36	25	0	1

◆脳神経外科

【部署概要】

主に脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷といった疾患を中心に治療している。なかでも神経系救急疾患の多くを占める脳卒中において、当院では、主に出血性血管障害は脳神経外科が、閉塞性血管障害は脳神経内科が治療をおこなっており、常に両科で情報を共有し、手術適応例は速やかに脳神経外科で対応することが可能である。

【診療・部署体制】

脳神経外科専門医 5 名と非常勤専門医 5 名含む合計 10 人で診療に携わっている。

救急疾患は、救急部に初期対応をお願いしているが、脳神経内科と連携して、神経系疾患を 365 日 24 時間体制で受け入れしている。

午前外来は月曜、火曜、木曜、土曜を 2 診制で、水曜、金曜を 1 診制で、また午後は、月曜のみを 2 診制、他は 1 診制で行っている。基本的には予約枠を優先的に診療し、随時予約外診療、紹介患者の診察を行っている。

入院患者治療は一人主治医制で行っているが、全体回診やカンファレンスを行う事で、全員が患者の疾患や状態を把握しているように努めている。

手術適応は、緊急の場合を除いて、術前に十分なカンファレンスのもとに決定され、大学病院さながらに非常に厳密に行っている。

【特色・トピックス】

A)当院で実施している脳血管障害手術について

- 1) 脳卒中センターを開設し、緊急手術を含めた 24 時間対応。
- 2) 脳動脈瘤症例は、開頭術（クリッピング）、脳血管内手術（コイル塞栓術）の選択肢から、症例に応じて最も適した治療法を選択している。
- 3) 脳動脈瘤手術（開頭によるクリッピング術）は、術中の脳保護のため、ほぼ全例に低体温麻酔を導入している。
- 4) 従来開頭で行っていた脳内出血も、神経内視鏡を積極的に用いて手術を行っている。

B)当院で実施している脳血管内治療について

- 1) 当院は大阪医科薬科大学の関連施設であり、山田誠医師および山田佳孝医師（日本脳神経血管内治療学会専門医）を招聘して、当院常勤の脳血管内治療専門医とともに治療を実施。
- 2) 頸動脈病変では頸動脈内膜剥離(CEA)、ステント留置術(CAS) の選択肢から、症例に応じて最も適した治療方法を選択。
- 3) 脳血管内治療後に開頭術が必要となった場合においても 24 時間対応が可能。

C)当院で実施している脳腫瘍手術について

- 1) 画像誘導手術支援(ナビゲーション)装置、並びに術中モニタリングを行い、安全性の高い脳腫瘍手術を提供している。当院では画像誘導手術支援装置、手術顕微鏡、手術室マルチ・モニター、高精度放射線治療システムがネットワークでひとつに統合されているため、術前の手術計画作成から実際の顕微鏡手術、術後の放射線治療計画作成、放射線照射までがひとつに統合された治療システム(BrainLAB 社、iPlan NET)上で行われ、症例毎に機能温存と根治性を両立させたテイラーメイド治療が可能となっている。
- 2) 下垂体腫瘍および下垂体近傍の頭蓋底手術に対しては、内視鏡による経鼻的下垂体腫瘍摘出術を行っている(2005 年から顕微鏡・内視鏡併用手術に、2008 年から顕微鏡を使用しない完全な内視鏡手術に移行)。手術及び周術期の管理も含めて耳鼻咽喉科と協力しながら行っている。
- 3) 術後は、疾患に適切な後療法(化学療法、放射線療法)が可能である。高精度放射線治療装置 (BrainLAB 社、Novalis Tx) を備え、放射線治療科と協力して定位放射線療法(SRS、SRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)など、最新の放射線治療を提供できる。

D)当院で実施している頭部外傷手術について

頭蓋内圧亢進を来す頭部外傷例においては、脳圧計を設置し、厳密に脳圧コントロールを行って術後管理をしている。

【診療・部署実績】

2022 年度診療実績（脳神経外科）

総外来患者数・・・7,903 人／年度

年間入院患者数・・・7,406 人／年度

2022 年 脳神経外科 全手術件数内訳（2022.1.1-2022.12.31）

脳血管障害	97件		
	くも膜下出血	10	破裂脳動脈瘤クリッピング術 4 破裂脳動脈瘤コイル塞栓術 6
	未破裂脳動脈瘤	13	未破裂脳動脈瘤クリッピング術 6 未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術 7
	脳内出血	20	内視鏡的血腫除去術 17 外視鏡的血腫除去術 1 開頭血腫除去術 2
	脳動静脈奇形塞栓術	1	
	内頸動脈血栓内膜剥離術（CEA）	2	
	脳梗塞・外減圧術	1	
	硬膜動静脈瘻（開頭術）	1	
	硬膜動静脈瘻（塞栓術）	2	
	脳血管攣縮エリル動注	2	
脳神経内科合同 脳血管内手術	内頸動脈ステント留置術（CAS）	11	
	血栓回収術	32	
	血栓回収術＋CAS	2	
脳腫瘍	11件		
	神経膠腫	4	
	髄膜腫	3	
	聴神経腫瘍	1	
	下垂体腺腫	2	
	その他(endolymphatic sac tumor)	1	
頭部外傷	45件		
	急性硬膜下血腫	5	
	亜急性硬膜下血腫	3	
	急性硬膜外血腫	0	
	外傷性脳内血腫（脳挫傷）	2	
	慢性硬膜下血腫	35	
水頭症	12件		
	V-P shunt	8	
	L-P shunt	1	
	脳室ドレナージ術	3	
機能外科	1件		
	三叉神経痛	1	
感染症	5件		
	脳膿瘍	3	
	硬膜下膿瘍	1	
	シャント抜去	1	
その他	8件		
	頭蓋形成術	5	
	ICPセンサー留置術	1	
	鼻腫瘍塞栓術	1	
	鼻出血塞栓術	1	
合計	179件		

◆小児科

【部署概要】

新生児から中学生までの一般小児疾患を対象としています。発熱、感染症などの急性疾患から、気管支喘息、食物アレルギーなどアレルギー疾患、起立性調節障害、夜尿、便秘、低身長など慢性疾患、育児相談、予防接種、乳幼児検診などを診療しています。入院診療は行っていませんが、小児の急性期・慢性期疾患に幅広く対応しています。小学生以上の児においては、外来で成長ホルモンの負荷試験を行っています。入院や、専門医の診療が必要な症例に関しては、地域医療連携室を通じて、専門の医療機関に紹介いたします。

【診療・部署体制】

常勤の小児科医1名体制で、基本的には月～水曜・金曜の午前・午後(水曜午後は完全予約制の予防接種外来のみ)、常勤医が対応しています。

【特色・トピックス】

総合病院の小児科として、院内各科と連携して、診療に当たっております。眼科病院の術前検査や、他科の乳幼児の血液検査などは、当科で処置を行なっています。

大阪市予防接種委託施設であり、定期接種及び、任意接種を行なっています。2022年度からはBCG接種も行っています。また、成人の麻疹・風疹などの抗体検査、及び肺炎球菌ワクチン以外の成人の予防接種も受け付けています。

大阪市の感染症動向調査小児科定点医療機関として、毎週、症例数を報告しています。

病院委託になっている1歳児健診(10カ月健診)も行っています(要予約)。

【診療・部署実績】

外来患者数(延べ)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	新来	31	36	34	90	62	29	25	24	26	44	32	24	457
	再来	32	31	37	57	35	26	35	28	32	30	24	44	411
	合計	63	67	71	147	97	55	60	52	58	74	56	68	868

主な予防接種実績(延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
四種混合	1	2	3	6	3	2	1	2	3	2	2	6	33
二種混合	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ピフ	2	2	6	8	2	1	2	3	3	1	3	4	37
肺炎球菌	2	2	6	8	2	1	2	3	3	1	3	3	36
乾燥弱毒生麻疹風疹混合	1	1	5	0	0	0	2	1	0	1	0	2	13
日本脳炎	3	2	2	3	1	1	1	0	0	0	0	1	14
乾燥弱毒性おたふくかぜ	1	0	4	0	0	0	2	1	0	2	0	3	13
乾燥弱毒生水痘	0	2	4	0	0	0	1	0	0	1	1	4	13
ポリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	3	2	3	2	2	1	3	4	2	1	2	5	30
ロタ	2	2	5	4	1	1	2	3	2	1	2	3	28
成長ホルモン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	16	15	38	31	11	7	16	17	13	10	13	31	218

◆泌尿器科

【部署概要】

スタッフは細川幸成、橋村正哉、伊丹祥隆、飯田孝太および橘 進彰の5名の常勤医、全日手術日の月曜日は平尾佳彦の非常勤医で構成している。

【診療・部署体制】

外来診療は、月曜日は2診体制、火曜日から土曜日の午前診は3診体制で、午後診は、月は2診体制、火・水・木・金曜日は3診体制で行っている。

体外衝撃波結石破碎術（以下、ESWL）は火、水および木曜日に全日で行っている。

【特色・トピックス】

救急病院である性格上、早急な対応が迫られることが少なくない。そのため、診断から治療までが早いことが当院の特徴である。

また、日本泌尿器科学会 専門医教育施設であり、奈良県立医科大学 泌尿器科学教室の専門医取得までの後期研修および、専門医がさらに指導医を取得するまでの教育基幹としての役割を担っている。

【診療・部署実績】

本年度の外来患者数は14,373名（昨年15,215名）、新患は997名（昨年1,372名）および紹介患者251名（昨年260名）であった。

本年度の入院患者数は767名（昨年765名）、平均在院日数は7.1日（昨年10.1日）であった。手術日は月曜日の全日、木曜日の午後、金曜日の午前に行っている。体外衝撃波結石破碎術（以下、ESWL）は火、水および木曜日に全日で行っている。

論文は2編（内筆頭著者1件）であった。

◆皮膚科

【部署概要】

一般外来は平日の午前・午後、土曜日の午前で行っている。

他科入院中の患者を対象とした病棟対診。

手術は局所麻酔でも行える小手術を行っている。

入院加療については、全身状態が安定していて早期退院が見込める症例を対象に担当させて頂いている。

褥瘡回診（皮膚・排泄ケア認定看護師好岡主任と共に週1回）。

【診療・部署体制】

部長：中井大介

その他非常勤医師（火曜午前、金曜午前、土曜）

【特色・トピックス】

皮膚科一般に可及的に対応し、重症度によっては他院への紹介も検討いたします。

難治性アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブ投与、難治性じんましんに対するオマリズマブ投与、腋窩多汗症に対するボツリヌス投与に対応しています。

男性型脱毛症に対しての内服加療（自費）、巻き爪に対するワイヤー治療（自費）を行っています

【診療・部署実績】

年間外来延べ患者数:7,685名 初診患者数:1,298名 紹介患者数:174名 入院実人数:40名

平均在院日数:5.3日 皮膚生検:139件 手術（皮膚腫瘍切除術:76件 皮膚悪性腫瘍切除術:5件 皮膚切開術:62件）

◆耳鼻咽喉科

【部署概要】

日本耳鼻咽喉科学会専門研修施設、日本気管食道科学会認定専門医研修施設です。若い人員が主体であり、まだまだ科としては未熟です。皆様からすると至らぬ点多々あると思いますが、今後さらに外来診療、手術治療に幅広く対応していくことが目標です。

【診療・部署体制】

一般外来は、月・火・木・金曜の午前は2診体制、金曜午後は1診体制、水・土曜午前は1診体制で行っています。月曜は局所麻酔生検、木曜、火曜の午後は術前、術後処置、めまい検査、シャント発声治療を中心とした予約外来を行っています。手術枠は水曜全日であり、1日1~3件の手術を行っています。

部長：天津 久郎（資格：日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修指導医、がん治療認定医、気管食道科学会認定専門医、身体障害者福祉法第15条指定医）

医員：大野 峻

医員：金本 紀亜

【特色・トピックス】

総合病院の日帰り手術センターのシステムのおかげで、他院では3日以上入院を要する全身麻酔手術も日帰りで安全に行うことができます。近隣の耳鼻咽喉科医院、病院からの手術目的を含め、紹介患者も増えています。総合病院耳鼻科の他科連携による手術治療の特色などを、webinarを用いて発表をしたことや、アシスタント、検査技師、看護師を含めた耳鼻咽喉科スタッフの長年の努力が少しずつ形になっていると思います。耳鼻咽喉科は、聴覚障害、嚥下障害、めまい、急性感染性疾患、腫瘍性病変や、その他、隣接領域である消化器、脳神経外科領域、形成外科領域とリンクして幅広く治療を行う科であります。なかなか認知はされていませんが、脳血管障害後の身体障害者診断も行っておりますので、適応のある方もどうぞ気軽にご相談下さい。また、大野がまだ若くはありますが、めまい疾患を幅広く診療を行っています。総合病院の診療科の垣根のないシステムと職員皆様のおかげで、私たち耳鼻咽喉科も充実した治療を行えています。社会医療法人きつこう会の一員として、より一層お役に立てる存在になればと思っています。

【診療・部署実績】

術式	件数	術式	件数
耳科手術	計39件	口腔咽喉頭手術	計53件
鼓室形成術	6	扁桃摘出術※	36
鼓膜チューブ挿入術	8	アデノイド切除術	2
鼓膜形成術	1	喉頭微細手術	13
乳突削開術	3	中咽頭腫瘍切除術	2
鼓膜切開術	21		
鼻科手術	計96件	頭頸部手術	計4件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術※	29	頭頸部腫瘍摘出術	4
鼻茸摘出術	6		
内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型（骨・軟骨手術）	13	その他	計41件
内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型（下鼻甲介手術）	30	扁桃周囲膿瘍切開術	6
下鼻甲介レーザー焼灼術	14	異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	27
経鼻腔的翼突管神経切除術	2	気管切開術	8
内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術	1		
経鼻的下垂体腫瘍摘出術	1	合計	233件

※印のあるものは側数（右側だけだと1、両側だと2）です。

◆形成外科

【部署概要】

形成外科は頭の前から足先に至る外表面に現れる疾患はほぼ対象としており、「こんなものまで治療の対象になるのか」と驚かれることが多い科です。顔面であれば眼、鼻、耳、口すべてを対象とし、手足、胸、へそ、とにかく目に見えるものであればその変形や欠損を元の状態に近づけていくことを科の特徴としています。形成外科の疾患は基本的に外科的治療つまり手術を行い対応するものがほとんどです。手術というと怖がられる方も多いと思いますが、使う器械や針はデリケートなものが多く、細い針を使用して最小限の皮膚切開で手術を行うなど患者さんの不安を少なくし、手術をすることで得られることが多い結果となるよう、笑顔のまま治療が終了するよう努力して日々の診療を行っています。体の表面のことであれば気軽に当科までご相談ください。

【診療・部署体制】

部長：若見 暁樹（わかみ さとぎ）

専門分野：顎顔面外科/眼形成/小児先天異常

資格・専門医・指導医等：大阪市立大学医学博士/大阪公立大学臨床教授/日本形成外科学会専門医・指導医/皮膚腫瘍外科指導専門医/小児形成外科分野指導医/乳房再建実施施設責任医師医員/乳房オンコプラスチックサージャリー専任医師/身体障害者福祉法第15条指定医（そしゃく機能障害）

医長：菱川 美紀（ひしかわ みき）

専門分野：形成外科一般/眼瞼形成

資格・専門医・指導医等：日本形成外科学会専門医

医長：上野 真理恵（うえの まりえ）

専門分野：形成外科一般

資格・専門医・指導医等：日本形成外科学会専門医

医員：橋本 昌也（はしもと まさや）

専門分野：形成外科一般

資格・専門医・指導医等：緩和ケア研修会終了

医員：建林 里佳（たてばやし りか）

専門分野：形成外科一般

資格・専門医・指導医等：緩和ケア研修会終了

【特色・トピックス】

2022年4月より医長2名、医員2名の新たなスタッフを迎え入れております。眼科病院との連携も進み、眼瞼領域の手術が充実して参りました。

【診療・部署実績】

新患者数：1,706名 入院患者数：570名

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	184	1	185
腰麻・伝達麻酔での手技数	31	1	32
局所麻酔・その他での手技数	628	245	873
入院または全身麻酔の手技数計：844			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：246			
合計係数：770			

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身 麻酔	腰 麻 伝達麻酔	局所麻酔 その他	全身 麻酔	腰麻 伝達麻酔	局所麻酔 その他	
外傷	74	6	3	1		3	87
先天異常	41		31			6	78
腫瘍	34	4	396			213	647
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	8		16			9	33
難治性潰瘍	15	20	26				61
炎症・変性疾患	3	1	16		1	4	25
その他	4		140			9	153
Extra レーザー治療	5		1			1	6

◆ 歯 科

【部署概要】

職員、入院中の患者、他科受診中(周術期等)の患者を対象とした診療。
近隣歯科医院や施設より紹介のあった有病者に対する治療(抜歯等)を実施。

【診療・部署体制】

歯科医師 1名
・ 歯科部長 岡本美樹
歯科衛生士 3名
歯科助手 1名

月曜～金曜日 9:00～11:30、13:00～16:00

【特色・トピックス】

- 1) 一般の歯科治療：齶蝕治療、補綴修復、自費治療、義歯の作製・調整等
- 2) 歯周病治療：歯周ポケット測定、歯石・着色除去、ブラッシング指導等
- 3) 抜歯等の外科処置：開業医からの紹介等
- 4) 有病者に対する治療
- 5) 周術期の口腔機能管理：手術前後及び化学療法中、緩和ケア中の患者を対象に実施
- 6) ゴメタ等投与前の口腔内のチェック・投与中の管理
- 7) 病棟での口腔ケア：病棟担当衛生士を配置
- 8) マウスピースの作製：歯ぎしり、顎関節症、手術用等
- 9) N S T回診に参加

【診療・部署実績】

受診患者総数(名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
540	492	570	559	533	620	582	541	553	613	581	724	6908

◆麻酔科

【部署概要】

2022年度は、産休で常勤スタッフが1名減のため常勤医5名と非常勤医師1名で周術期管理を行った。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）蔓延による影響については、ほぼ改善し件数はコロナ以前にもどり、3,499件から3,713件へと増加した。また麻酔科スタッフにCOVID-19罹患者は出ず、手術室運営に支障は出なかった。

【診療・部署体制】

麻酔科部長：	棚橋識生	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
副部長：	宋よんす	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔認定医
副部長：	坂口 豪	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医
副部長：	三馬 葵	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
副部長：	中川由紀子	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医
医員：	柴田 梢	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医

【特色・トピックス】

常勤医が1名減少するも、非常勤医師の応援により、コロナ以前の手術件数にも対応することができた。また坂口医師が新たに専門医共通機構認定資格をとった。

【診療・部署実績】

2022年度は総手術件数3,713件、そのうち麻酔科管理症例は2,800件。全身麻酔件2,162件、脊麻638件であった。緊急手術は457件であった。
手術時間最長は、脳外科の脳腫瘍に対する開頭摘出手術、手術時間は27時間14分で、麻酔時間は30時間52分であった。

◆放射線診断科

【部署概要】

・総合病院の一般撮影、CT・MRI・RI、骨塩定量・マンモグラフィ・X線透視・血管造影（IVR）脳神経リハビリ病院の一般撮影を常勤放射線科医師3名と非常勤医師、診療放射線技師21名で担当している。
・夜間当直を1人体制とオンコール対応で行い、一般撮影・CT・MRI・心臓血管撮影・頭部及び腹部血管撮影・血管内手術・エックス線TV等の緊急検査にも対応している。

【診療・部署体制】

放射線診断部
部長：松尾 良一／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
部長：濱澤 良将／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、大阪市立大学医学部博士
副部長：谷口 明繁／日本医学放射線学会放射線診断専門医、
副部長：池本 美奈子／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会指導医、検診マンモグラフィ読影認定医

【特色・トピックス】

マンモグラフィ関連

- ・女性診療放射線技師が7名になったので、マンモグラフィ検査は、女性技師が担当するように体制を整えた。
- ・乳腺外科ができたことで撮影件数が増加した。
- ・多根クリニックの女性スタッフが休暇の際、総合病院放射線科からマンモ業務に行く体制した。

MRI 関連

- ・当直帯で救急の検査を行うことで、日勤帯の病棟検査待ちが減少した。
- ・当日至急をすべて受け入れて検査を行った。
- ・病棟の患者は看護師と連携を密にし、検査時間を指定する事で、全体の検査を効率よく行うことが出来た。
- ・検査内容を医師と検討して1検査あたりの撮影時間を短縮させることが出来た。

CT 関連

- ・単純CTのみ予約をオープンにした。
- ・予約枠にAM枠、PM枠を設けた。
- ・入院患者のCT検査を1階救急用CTで撮影する事にした。結果、3階CT検査での待ち時間が減少した。
- ・入院患者当日撮影時間を始業前に決め、病棟への連絡を最小限にした。
- ・可能な限り当日依頼の造影CTを受け入れた。
- ・救急CTが毎年増加している。

医療安全対策

- ・部署内にヒヤリ・ハットを更に周知徹底させ報告書を提出する努力を行った。
- ・インシデントが発生した場合はカンファレンスシートを用いて、速やかに対策を検討して問題解決をはかりスタッフに周知した。
- ・放射線技師接遇規範を見直し、周知徹底して患者様に接した。

業務改善

- ・造影剤同意書・問診表を更新した。
- ・定期的に看護師や他部署等と話し合いを行い日常業務がスムーズに行えるようにする。
また問題発生時には、看護部連絡会及び業務改善委員会等で早期に解決する。
- ・単純撮影業務において、病棟患者の検査時間を指定する事で、全体の検査を効率よく行うことが出来た。
- ・手術室で毎週水曜日午後外科用イメージ業務を行うようにした。
- ・診療放射線技師の業務拡大に伴い、造影検査後の抜針を技師も行う体制にした。

教育

- ・学会、研修会に積極的に参加して、スキルアップを行った。
- ・定期的勉強会等を行い技術の向上を図った。

コスト削減

- ・当科で修理して使用できる物は、できる限り修理を行った。
- ・使用していない検査室の照明及び空調の電源は、細目に切り節電に心がけるようにした。

実習生の受け入れ

- ・4施設の教育実習施設として指導を行った。

【診療・部署実績】

2022 年度実績

		2022 年度	2021 年度	2020 年度
検査件数 2021 年 4 月 ～2022 年 3 月	一般撮影	27,464	26,941	27,938
	ポータブル撮影	8,855	8,959	7,611
	上部消化管	2	2	9
	下部消化管	0	0	1
	エックス線TV	1,293	833	1,107
	乳房撮影	569	589	648
	骨塩定量	372	375	447
	頭部血管撮影	162	131	169
	腹部血管撮影	29	23	31
	心臓血管撮影	224	255	175
	C T	31,208	28,028	28,053
	M R I	7,955	7,726	7,428
	R I	302	299	244

◆放射線治療科

【部署概要】

【医師および全体】

高精度放射線治療（IMRT、定位照射）を中心に年間約 300 件の治療を行った。他院では実施が困難な症例においても、エビデンスや十分な文献的考察に基づいた放射線治療を実践している。そのため、半数以上が他院からの紹介患者となっている。なお、安全かつ高精度の放射線治療を推進することを目的として、一定の基準を満たす施設を日本放射線腫瘍学会は認定施設としているが、当施設は 2017 年 4 月より同施設認定を受けている。

医師の初回診察時に治療方針が決定されるが、個々の患者にとって最適な放射線治療を提供できるよう、十分な説明の後に患者の意思決定がなされるよう特に配慮している。この時点より、患者の不安軽減を期し、看護師による介入も行われる。治療計画は医師・診療放射線技師により行われ、複数回の確認作業を経ることにより最適化している。診療放射線技師や医学物理士は治療成績に直結する日々の照射精度を担保するとともに、照射時の患者の精神的・肉体的苦痛の軽減に努めている。治療期間中には医師の定期診察や看護師の定期面談を行っているが、治療終了後にも医師やがん放射線療法看護認定看護師による継続的な経過観察を行い、治療効果判定や副作用に対する早期介入を行っている。これらの過程は、患者の QOL を保ち局所制御を得ることを第一義としている。

診療部、看護部、医療技術部、管理部の各職種が共通の放射線治療業務フローに則り行動しているが、明文化された内容以外にも各職種間で補完しながら業務を行っている。また、業務フローは双方向性であるためにスタッフ一人ひとりのコミュニケーションが重要な部署である。円滑な情報共有を行うために、各職種が参加する週 1 回の業務カンファレンスならびに症例カンファレンスを行っている。

【医療技術部門】

- ・毎日放射線治療に通われる患者さんに対する接遇を大切にしながら、正確な照射を日々行っている。
- ・装置の品質管理に努め、高い治療精度を保つこと、そしてダウンタイムを極力抑えるために QA/QC を継続的にしている。
- ・高精度放射線治療の治療計画の実施及びサポートを行っている。
- ・機械学習ソフトを活用した治療計画の作成を行っている。
- ・複雑化する治療計画に対して安全に治療が行われるか物理的視点から考察し、必要があれば医師とディスカッションを行っている。
- ・安全に治療が行われるように、MU 値の独立計算や 3 次元線量検証システムを用いた患者体内線量分布予測などを行い、作成された治療計画の安全性の保証を行っている。
- ・照射技術・知識の自己研鑽のため、論文投稿、学会・研究会への参加・発表を積極的に行っている。

【看護師】

がん放射線療法看護認定看護師（以下 CN）が専従看護師として勤務し、外来患者に対して外来照射診療料を算定している。初診時には CN が放射線腫瘍医の初診に同席し治療選択における意思決定支援およびがん患者さんのカウンセリングを行いながら、治療選択支援を行っている。治療開始後は、CN が日々の照射前の体調確認や前処置への介入に加え、治療中の定期面談を通して患者さんやご家族の不安や疑問、急性有害事象などに対応しながら安心して予定された治療を無事に完遂することができるよう支援している。また治療終了後は、放射線療法看護外来を実施しており治療後の急性期および晩期有害事象の発症により日常生活に問題を抱えている患者さんに対して治療医と共に継続的な支援を行っている。

2023 年度より放射線治療科の看護師体制は CN 1 名体制へ変更となり、CN が照射介助業務と診察業務、看護外来を全て担当している。そのため、放射線治療を受ける患者さんが安全・安楽に治療を受けることができるようタイムリーに放射線腫瘍医、診療放射線技師、メディカルクラーク、受付と円滑な情報共有を行いながら業務に従事しており、CN 不在時の他職種への業務のタスクシェアを積極的に実践している状況である。患者情報の共有においては、毎日の放射線治療科朝礼を通して他職種間で全体共有を行うことができている。

【医師事務作業補助者】

医師の診療補助（オーダー入力・管理・診断書作成）、治療センター内の患者情報管理及び伝達調整、カンファレンス、他院からの治療依頼調整、治療検査着の管理、診察や検査予約の調整。

【診療・部署体制】

【スタッフ】

<医師>

石井 健太郎 部長
森本 英之 副部長
竹村 玲子

<診療放射線技師>

川守田 龍 技師長
中原 隆太 主任
岸本 瞬
中坂 優太
草別 真行

【特色・トピックス】

【医師】

・日本の現状では高精度治療の利点が十分に患者に還元されているとはいえない。当院では専門的知識に基づき、安全面に十分配慮したうえで、従来一般的に用いられているよりも幅広く高精度治療を実施し、その成績を国内外の学会・論文等で報告している。

・自由診療による高精度放射線治療を実践している。

・放射線治療専門医が2名在籍していることは、同規模の病院では稀なことであるが、高精度治療を迅速に実施していくには、同体制が必要である。

【医療技術部門】

・高度化する医療に対応すべく Deformable Image Registration を使用したマルチモダリティの fusion 画像の作成や過去の線量分布の合算を行い、より適切な治療計画の作成に参画している。

・複雑化する照射方法に対して3次元線量検証システムを用いて患者体内線量分布を予測し、安全に治療が行われることを保証している。

・機械学習ソフトを用いたより最適な治療計画の作成および効率的な治療計画の作成を行っている。

・装置の使用から10年が経ち、各部品の経年劣化が散見されるようになった。一方で寡分割照射の件数増加などに伴い複雑化する治療技術に対して、安全で精度の高い放射線治療の実施をするためにQA/QCを継続的に行っている。

・治療計画CT装置の更新により、金属アーチファクトを軽減した画像の提供やDual Energy CTの撮影が可能となり、より治療に有用な画像の提供を行っている。

・キロボルトのX線に対応した線量計を用い、各装置の被ばく線量を測定することにより医療被ばく管理を積極的に行っている。

【看護師】

・がん拠点病院の算定要件にある通り、がん放射線療法看護認定看護師が治療科専従看護師として勤務している。

・治療科朝礼や症例カンファレンスを通してタイムリーに患者情報を他職種と共有しながらチームの調整役として患者さんのサポートにあたることができている。

・がん放射線療法看護認定看護師として当院で特定行為研修を修了しており、現在は特定認定看護師として食道癌や前立腺癌患者さんを中心に治療期間における脱水予防や前処置介入を通して活動している。

【医師事務作業補助者】

他職種や他科との連携とりながら、治療や診察をスムーズにすすめられる様にサポートをしている。

【診療・部署実績】

・2022年度の照射件数は282件であり、うち165件(59%)が高精度放射線治療であった。その内訳は、IMRTが111件であり、定位照射が54件であった。

・上記の如く高精度治療の比重が高いことが当施設の特徴ではあるが、年度を通じて照射装置を高い精度下に管理することにより、安全に治療を実施できた。

◆救急科

【部署概要】

院内各科と協力し、救急患者対応を行っています。

【診療・部署体制】

常勤医 3 名、非常勤医 1 名に後期研修医（大阪大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム内ローテーション）及び初期臨床研修医で救急患者対応を行っています。

【特色・トピックス】

COVID-19 流行下においても、病院を挙げて救急診療体制の維持に務め、2022 年度は救急外来受診患者数は 17,381 人、救急搬送件数は 9,855 件と、救急搬送件は過去最高の件数となりました。

【診療・部署実績】

救急搬送件数	9,855 件
ER 総受診患者数	17,381 人

◆腫瘍内科

【部署概要】

腫瘍内科では臓器横断的ながん薬物療法を中心に適切ながん治療を提供すべく各診療科、他職種と連携しながら診療を行っている。

2020 年 4 月にがん診療センターが新規オープンし、外来化学療法ベッドが 5 床から 15 床に増床し、外来診療枠が 1 枠から 3 枠に増加した。また新たにアドバンス・ケア・プランニング外来を新設し、患者に合わせた最適な治療・療養方針を説明している。

がん薬物療法認定薬剤師による薬剤師外来を新設し、新規薬剤を用いた治療導入の際の服薬指導を行っている。

がん化学療法認定看護師によるがんサポーターケア外来を新設し、がん薬物療法による有害事象、アピアランス・ケアなどのフォローを行っている。

薬剤師外来、がんサポーターケア外来のフォローは腫瘍内科で行っている。また、外来化学療法室での有害事象発生時に主治医とともに腫瘍内科で対応している。

最近ではがんゲノム医療の発展に伴い、家族性腫瘍・遺伝性腫瘍のコンサルト窓口を請け負っている。特に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するスクリーニング、遺伝カウンセリングを行っている。

がん関連学会の参加・発表、講演会、がん教育に積極的に関わっている。

がん薬物療法チームとして、治療方針の相談、有害事象に対する支持療法のアドバイスなども行っている。

【診療・部署体制】

腫瘍内科・副部長	岡田佳也
がん薬物療法認定薬剤師・副薬局長	其田学士
外来がん治療認定薬剤師・薬剤部主任	岩井裕香
がん化学療法看護認定看護師	柴垣美和

【特色・トピックス】

昨今がん診療の発展はめざましいが、その中心はがん薬物療法である。免疫チェックポイント阻害剤に代表される多種多様な薬剤が登場したことで治療の選択が広がっている一方、有害事象も複雑化し、支持療法の重要性が指摘されている。欧米では以前から Oncology（腫瘍学）が専門分野として確立されているが、本邦では Oncologist（臨床腫瘍医）は相対的に大変少ない。これらのことから年々がん薬物療法の専門家の需要が高まってきており腫瘍内科医に求められる期待は大きい。しかし一方、現状のがん薬物療法では治癒を望めるような成果は上げられておらず、従って緩和医療を早期から適切に実施していくことががん診療において大変重要である。当院においてもそれに従い、がん治療中から緩和医療を実践するべく腫瘍内科と緩和ケア内科はシームレスに診療を行っており、相互支援を行いつつ他職種も交えたがん診療の実践を行っている。

近年ではがんゲノム医療がトピックスとなっており、主に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群のスクリーニングを含めた遺伝カウンセリングを行っている。

【診療・部署実績】

- ・腫瘍内科 外来件数（延べ人数）：787 人
- ・腫瘍内科 外来化学療法加算件数：488 件
- ・腫瘍内科 手術件数（ポート造設件数）：34 件
- ・薬剤師外来件数 : 48 件

◆DS（日帰り手術）センター

【部署概要】

日帰り手術（短期滞在手術）は患者さんに多くのメリットのある治療方法である。

多根総合病院 DS（日帰り手術）センターは、全国に先駆けて 1998 年に開設した、日帰り手術を専門に行う施設で、2022 年 3 月末時点で約 40,000 例の治療実績。特に日帰りでは難しいと言われる胆石やソケイヘルニアなど数多くの経験を持っておりこのうち約 93%の患者様が当日あるいは翌日に退院されている。2022 年 9 月より総室 6 床を夜間の E ルームとして運用することとなった。

【診療・部署体制】

丹羽英記 院長/名誉センター長

小川 稔 外科部長

上村佳央 センター長

棚橋識生 副センター長

看護師（消化器外科棟とローテーション）

クラーク

【特色・トピックス】

<基本方針>

短期滞在専門施設として社会的ニーズに応え、質の高い医療を提供する

<目標>

症例件数：患者満足度の高い接遇の実施

<特色>

鼠径ヘルニア、胆石症手術、上下内視鏡検査・処置の症例維持

各科からの要望に応え、短期滞在治療に適した患者を受け入れる

【診療・部署実績】

2022 年度件数 1,720 (1,922)件 (): 昨年度
 ≪外科≫788 (997)件、 ≪消化器内科≫218 (214)件、 ≪泌尿器科≫154 (135)件、 ≪整形外科≫20 (40)件
 ≪形成外科≫459 (470)件、 ≪耳鼻科≫46 (34)件、 ≪皮膚科≫13 (23)件
 全身麻酔：679 (796)件、腰椎麻酔：98 (97)件、静脈麻酔：31 (35)件、局静麻酔：422 (433)件、伝達麻酔：1 (7)件
 当日退院：714 件(41.5%) (687 件(35%))、 1泊入院：932 件 (54.1%) (1130 件 (58%))
 2泊入院：25 件 1.4% ((56 件(2.9%))、 3泊以上：49 件(2.8%) (60 件 (1.7%))
 病床稼働率：111%

主な疾患 (): 昨年度

≪外科≫

ソケイヘルニア	415 (497)	大腸ポリープ切除	105 (161)	大腸内視鏡検査	24 (56)
胆石・ポリープ	85 (102)	痔核	43 (58)	上下部内視鏡検査	33 (32)
虫垂炎	12 (22)	CVポート留置/抜去	13 (11)		

≪消化器内科≫

上部内視鏡(検査・処置)	112	大腸ポリープ切除	107 (101)	大腸内視鏡検査	46 (24)
--------------	-----	----------	-----------	---------	---------

≪形成外科≫

皮膚皮下腫瘍	280 (232)	眼瞼下垂	70 (121)	鼻骨骨折	25 (22)
--------	-----------	------	----------	------	---------

≪整形外科≫

抜釘	6 (20)	経皮ピンニング	5 (3)	腱鞘切開	5 (4)
----	--------	---------	-------	------	-------

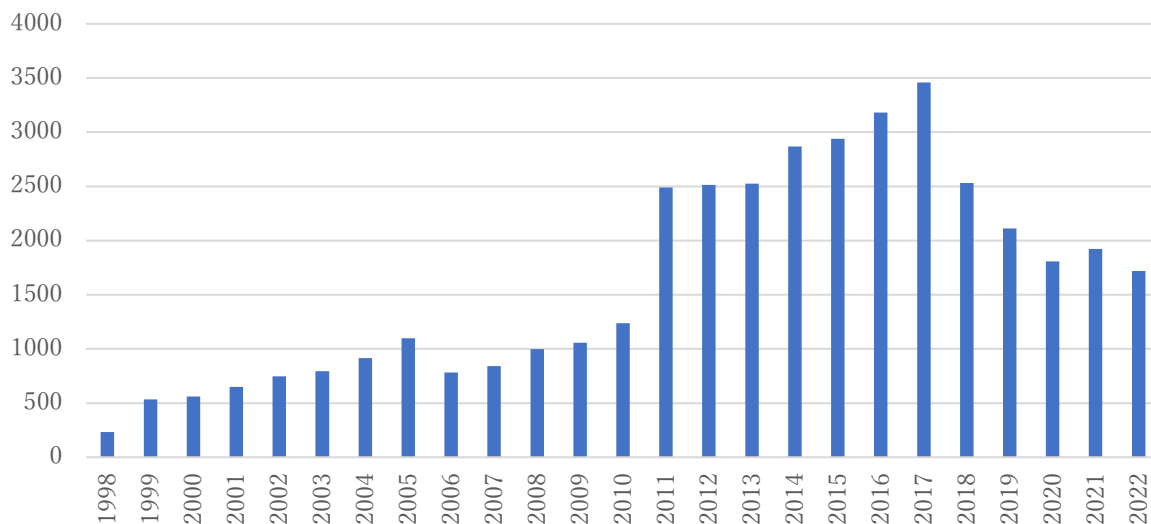
≪泌尿器科≫

前立腺生検	70 (69)	尿路結石	46 (54)	包茎	14 (5)
-------	---------	------	---------	----	--------

≪耳鼻科≫

鼻中隔湾曲症	10 (0)	滲出性中耳炎	8(5)
--------	--------	--------	------

DSC件数の推移



◆看護部

【部署概要・体制】

病棟	診療体制	病棟	診療体制
DSC	外科系・消化器内科等の短期滞在手術対象	10階	整形外科、形成外科、皮膚科
7階	消化器外科	11階	消化器内科
ICU		12階	泌尿器科病棟 ※2022.1.13～6.23重点医療機関の指定病棟
8階	循環器内科 ※2021.5.7～2022.1.12重点医療機関の指定病棟	緩和	緩和ケア
8HCU	※2021.4.14～5.6重点医療機関の指定病棟	手術室	
9階	脳神経外科・脳神経内科	救急外来	
9HCU		一般外来	

【特色・トピックス】

- 1)看護師特定行為研修 5期生開校式 :5月6日
 - 2)認定看護管理者教育課程受講 ファーストレベル:寒竹 朋代
セカンドレベル:津谷 量也
 - 3)大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会:前田 紗也佳
 - 4)大阪府看護協会 感染管理地域ネットワークへ登録(2022.6.1~):宮崎 悠
 - 5)公益社団法人 大阪府看護協会 2022年度・2023年度大阪府看護協会における開催学会の「一般演題」抄録選考委員の就任(2022.7.1~2024.3.31):竹田 マミ
 - 6)公益社団法人 大阪府看護協会 令和4年「大阪市看護職員認知症対応力向上研修」の講師派遣(2022.10.19):竹田 マミ
 - 7)公益社団法人日本看護協会「介護施設等における看護指導者養成研修」演習支援依頼 11.2・12/23:仲由紀子
 - 8)公益社団法人 大阪府看護協会 2022年度「病院と在宅医療を担う訪問看護ステーション・福祉関係施設の相互研修」ステップII 演習ファシリテーター派遣 2023.1.21:竹田 マミ
 - 9)2022年8月1日 入院のご案内パンフレット廃止し病棟へ配布。入院申込書兼入院時誓約書のQRコードへ
 - 10)2022年8月10日 オーバーテーブル配置
 - 11)2022年9月1日 日帰り手術センターで夜間緊急入院受け入れ開始(Eルーム11階病棟よりDSへ変更)
 - 12)2022年9月20日 病室ロッカーの施錠(使用希望患者のみ解錠する)
 - 13)2022年10月3日 放射線技師による手術室での術中透視業務
 - 14)2022年11月1日 TSC職員によるキャビネットへの医療材料補充開始
 - 15)2022年11月1日 日中のPTGBD実施時、救急外来看護師の介助不要 内視鏡室へタスクシフト
 - 16)2022年11月1日 救急外来繁忙時には、看護師の受入れ可否の意見を聞く
 - 17)2022年11月1日 電子カルテエントランスに「OPストップ」とストップ中の表示を行う
 - 18)2022年11月28日 10階病棟看護師が整形外来へタスクシェア
 - 19)2022年12月1日 7階病棟看護師がDS症例手術(間接介助)へタスクシェア
 - 20)2023年1月4日 救急外来・7階ICU 救急外来業務・予定心臓カテーテル検査・その他タスクシェア
 - 21)2023年3月13日 入退院時のDPCに関わる嚥下評価入力を栄養科へタスクシフト
- 2.学校講師・講義
- 1)学校法人大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 国際看護・災害看護(2022.10/19・11/4):中西 紀彦
 - 2)大精協看護専門学校 2022年度災害看護2年生(43期生):中西 紀彦
 - 3)大精協看護専門学校 2022年度成人看護学援助論I:矢野 晋
 - 4)大阪市立大学看護系同窓会 よつば会(2022.7.15) 渡邊 亜紀
 - 5)九州保健福祉大学 看護学概論(2023.1/21・1/27・1/28):米倉 修司

3.日本看護協会・大阪府看護協会講師

- 1)大阪府看護協会看護専門学校 老年看護学援助論Ⅱ講義(2022.6.7～8.2):好岡 文葉
- 2)大阪府看護協会看護専門学校 成人看護学援助論Ⅱ講義 (2022.9.13～11.24):宮崎 悠
- 3)大阪府看護協会看護専門学校 成人を支える看護Ⅰ講義 (2022.11/2・11/9・11/16):有地 正人
- 4)大阪府看護協会 特定行為研修のファシリテーターフィジカルアセスメント講義 (2021.8.3・4):中西 紀彦
- 5)大阪府看護協会 「大阪市看護職員認知症対応力向上研修」への講師派遣 (2022.8.10・19):竹田 マミ
- 6)公益社団法人大阪府看護協会 「人工呼吸器装着患者の看護①②」(2022.12.9・12.24):米倉 修司
- 7)公益社団法人日本看護協会 高齢者虐待防止や権利擁護に関する意見交換
地域連携容共についての共有、演習 (2022.11.2・12.23):仲 由紀子
- 8)公益社団法人大阪府看護協会 「病院と在宅医療を担う訪問看護ステーション・福祉関係施設の相互研修」ステップⅡ 演習ファシリテーター (2023.1.21) 竹田 マミ

4.その他研修講師・看護学生実習受け入れ

- 1)大阪市立市岡中学校 職業講話学習 (2022.2.10):米倉 修司 木田 容子
- 2)大阪市立市岡東中学校 職業講話学習 (2022.2.14):尾崎 昭太 品川 智恵子
- 3)令和4年度(第15回)「大阪DMAT研修」(2022. 7.2～7.3) 中西 紀彦
- 4)関西ストーマケア講習会・関西STOMA研究会 実行委員(講師)派遣(2022.10.1～10.2):好岡 文葉
- 5)「オンライン ストーマケアセミナー大阪」講師派遣 2022.7.9:好岡 文葉
- 6)大阪府立阿倍野高等学校 卒業生講演:桐吉 美帆
- 7)宝塚大学 卒業生取材:渋谷
- 8)日総研 隔月刊誌「重症集中ケア」動画ライブラリ講師「酸素化はどうやって評価するの?」他
(2022年9月号・11月号・1月号・3月号担当):米倉 修司
- 9)大阪府病院協会看護専門学校 3年課程
- 10)大阪府病院協会看護専門学校 2年課程通信制
- 11)宝塚大学
- 12)大和大学
- 13)大阪公立大学
- 14)大阪医療看護専門学校
- 15)関西福祉科学大学
- 16)公益社団法人大阪府看護協会 2022年度認定看護管理者教育課程サードレベル統合演習Ⅲ
臨地実習1名受け入れ:大崎和子
- 17)関西女子短期大学医療秘書総合実習(医師事務作業補助者業務領域):2名受け入れ
- 18)令和4年度職場体験受け入れ(大阪市西中学校)2022年9月8日～9月9日

【診療・部署実績】

1. 看護目標に対する評価
 - 1)看護部部署別中間発表(9月)
 - 2)看護部部署別目標評価(3月)
2. 看護部委員会成果発表(3月)

◆薬剤部

【部署概要】

17名の薬剤師と事務1名、調剤・製剤・注射剤各業務、在庫管理、薬剤管理指導・医薬品に関する情報の収集と提供を中心に薬に関する業務を取りまとめている。2020年10月からSPD6名と共に在庫管理を行っている。

医薬品情報を加味した医薬品の安全かつ安定な供給に努め、また薬剤師の職能を生かせるようにチーム医療に貢献していける薬剤師の育成にも力を入れている。

<薬剤部の方針目標>

- 医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を努める。
- 病棟薬剤実施加算など診療報酬算定可能な業務への取り組みを継続する。
- 薬剤師教育の中で 専門・認定薬剤師を育成する。
- チーム医療を考慮した業務の見直しを進めることに努める。
- 実習生の受入れ体制を整えていく。

【診療・部署体制】

常勤薬剤師：17名 事務員：1名 夜勤体制あり
がん薬物療法認定薬剤師（1名） 毎週金曜 午後 薬剤師外来
外来がん治療認定薬剤師（1名） 毎週水曜 午前 薬剤師外来

【特色・トピックス】

<調剤室>

入院患者への内服・外用薬の調剤を行い、外来患者への一部院内調剤を行っている。2021年10月より診察室において院外処方箋発行となっており、保険薬局からの疑義照会についてはプロトコルを作成し、医師-薬剤師間で同意のもとで「疑義照会の簡素化」を行っている。オーダーリングシステムで医師が処方を入力し、薬剤部で処方箋と薬袋を発行し、主に一包化調剤している。適正在庫に努め発注も行っている。検査や手術のための予定入院の患者に対し、入院前の常備薬の薬品鑑別や中止薬の説明面談も行っている。

<注射室>

外来・入院患者の注射薬を個人セットして払い出しを行っている。抗がん剤治療に関しては投与前日までに、複数名の薬剤師で登録されたレジメンを確認し、薬剤を取り揃え、抗がん剤投与、当日に無菌調製室内の安全キャビネットを使用して無菌的(菌汚染の防止)、安全的(被爆の防止)に混注調製し提供している。また無菌調製室内のクリーンテーブルを使用して高カロリー輸液の無菌調製や院内製剤の調製も行っている。適正在庫に努め発注も行っている。

<病棟管理業務管理室>

入院患者さんを対象に、持参薬の薬歴管理をはじめ、入院中の内服薬、外用薬、注射薬、検査値等の情報を把握した上で、お薬のしおりを使って薬の説明を行うなど、安心して薬物治療を受けてもらえるよう努めている。バンコマイシン注やアルベカシン注などのTDM(適正な薬物療法を行うためのモニタリング)を行い、副作用のモニタリングや投与量の提案を行っている。また、副作用など患者さんから早期に聞き出して医師や看護師にフィードバックすることにより、症状が悪化することを未然に防いでいる。注射薬では流量や2種類以上投与される場合に配合変化を確認し、時には医師に処方提案をすることによってより良い医療の提供を目指している。

<医薬品情報管理室>

厚生労働省などの公的機関または製薬会社、書籍などから情報の収集・整理・保管し、医師や看護師などの医療スタッフへの情報提供を行っている。

薬事委員会の資料作成・採用医薬品の管理などの業務を行っており、DI情報はイントラネット(CoMedix)や電子カルテで参照可能である。市販後調査や副作用報告について一元管理を行っている。また地域薬局と連携で月1回勉強会を行っていたが、COVID-19感染拡大防止のため2021年度に引き続き中止とした。

<薬剤師外来>

がん薬物療法を受けている患者に対して「がん薬物療法認定薬剤師」または「外来がん治療認定薬剤師」が面談を行い、副作用やコンプライアンス等の確認をすることで、安全で効率の良い診療に貢献出来るよう努めている。

<抗菌薬適正使用推進>

薬剤耐性（AMR）対策の推進、特に抗菌薬の適正使用推進の観点から、抗菌薬適正使用支援チームの組織を含む抗菌薬の適正使用を支援する体制を作り、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）において広域抗菌薬・抗MRSA薬の使用症例、血液培養陽性症例、抗菌薬長期使用症例、主治医からの相談症例などをチームで検討し、その内容を主治医にフィードバックしている。

【診療・部署実績】

<調剤業務>

院外処方箋の監査、外来院内処方及び入院の調剤

2022年度の 院外処方箋枚数：4,741枚/月、院内処方箋枚数：848枚/月、

後発医薬品使用割合：89.5%

院外処方箋発行率 84.8%、入院処方箋枚数 5,526枚/月

外来一包化：8件/月 入院一包化：2,100件/月 持参薬一包化件数 1件/月

<注射業務>

入院患者の注射投薬、高カロリー輸液、抗悪性腫瘍剤の混注、院内製剤調整、病棟薬剤在庫管理

2022年度の入院注射処方箋枚数：8,359枚/月、 外来注射処方箋枚数：358枚/月

高カロリー輸液の無菌調製件数：119件/月

外来入院抗悪性腫瘍剤の無菌調製件数：外来患者120件/月 入院患者12件/月 院内製剤件数：26件/月

<病棟での薬剤活動・業務等>

病棟担当薬剤師は入院患者の薬歴の管理、服薬指導、情報提供等を行い患者に安心して薬物治療を受けてもらえるように心掛けている。

2022年度 薬剤情報提供算出 服薬指導患者数 606人/月 服薬指導面会件数 698件/月

病棟薬剤業務実施加算件数：1,668件/月 薬剤管理指導等の加算件数 615件/月

持参薬鑑別：430件/月 持参薬管理件数：374件/月

抗MRSA薬TDM件数(2022.4月～2023.3月)：バンコマイシン 267件

<医師に対する支援>

処方代行修正件数 311件/月

<DI業務>

副作用報告：2件/年、 質疑応答：24件/年

<薬学部実務実習受け入れ>

年間 3名受け入れ

<治験審査委員会>

CRC（コーディネーター）薬剤師4名（兼任、1名産休）で管理

治験審査委員会(IRB)に参加、議事録作成を行っている。2022年度は開催されておらず。

<認定活動/チーム活動>

薬剤師が積極的に活動している院内のチーム活動

- ・がん薬物療法認定薬剤師 1名、外来がん治療認定薬剤師 1名
患者指導、薬剤師外来、レジメン管理、処方修正代行

指導件数；47 件/月、がん患者指導管理料ハ算定件数：13 件/月、連携充実加算算定件数：22 件/月

- ・抗菌化学療法認定薬剤師 2 名+薬剤師 1 名（感染制御部・AST・ICT に所属）
カンファレンス(週 1 回)、ラウンド(週 1 回)・ICT ニュース作成・ICT 講習会講師
感染制御部のミーティング(週 1 回)

AST(抗菌薬適正試用支援チーム)として抗菌薬適正使用を支援するために広域抗菌薬や長期使用症例の把握、抽出、検討、フィードバック、相談応需
抗菌薬に関する支援の受け入れ率：81.8%

ICT(感染制御チーム) 6 名(認定薬剤師 2 名+薬剤師 4 名)
環境ラウンド(週 1 回)・ICT ミーティング(月 1 回)

- ・NST 専門療法士 3 名 + 薬剤師 2 名
ラウンド(週 2 回)、NST 会議(月 1 回)、NST 実施研修講師 又は ファシリテーター、
NST 講習会講師
1 回の回診；平均 12 人/週

- ・緩和ケアチーム 2 名
緩和ケアラウンド(週 1 回)・緩和ケアカンファレンス(週 1 回)
疼痛コントロール相談応需 4・術後支援等の話し合い

◆医療技術部 中央検査部門

【部署概要】

中央検査部門は、検体検査室、病理検査室、細菌検査室、生理検査室、中央採血室の 5 つのセクションに分かれており、正確、迅速、経済的、効果的に患者様の為、業務を行っています。検体検査室では、血液や尿などを検体として生化学検査、血球数算定、クロスマッチ、尿検査、感染症、免疫検査などの臨床検査を実施しています。病理検査室では、組織診(術中病理組織診断)を主な業務とし、臨床検査技師が標本を作製し病理医が診断しています。その他に解剖も実施しています。細菌検査室では、喀痰や尿、血液などから細菌の培養、同定を行い有効な抗菌薬を見つけるために薬剤感受性試験を実施しています。また、質量分析を利用した細菌同定を実施し、迅速に結果を報告しています。生理検査室では、心電図、肺機能検査、脳波、各種超音波検査などを実施し、患者様からの生体情報を臨床へ報告しています。中央採血室では、正確で迅速な臨床検査データを出すため、外来患者様の採血を専任の臨床検査技師が実施しています。

【診療・部署体制】

臨床検査技師：28 名(医療技術部長 1 名、技師長 1 名、副技師長 1 名、係長 3 名、主任 2 名、サブスーパーバイザー 5 名)

認定臨床検査技師：認定輸血検査技師(2 名)、NST 専門療養士(1 名) 糖尿病療養指導士(2 名)、超音波検査士(2 名)、緊急臨床検査士(2 名)、二級病理技術士(5 名)、心電図検定 1 級(1 名)

【特色・トピックス】

正確で迅速な検査結果を報告するため、日本医師会、大阪府医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府臨床検査技師会、各種メーカーサーベいの外部精度管理に積極的に参加し、臨床検査の精度向上に努めています。また、臨床検査適正化委員会や、輸血療法委員会を年数回実施し、業務の改善をしています。チーム医療にも協力しており、糖尿病教室の運営支援・NST、ICT へ参加しています。新型コロナウイルス関連検査を院内で実施しており、2022 年度件数は PCR 検査 (11,397 件)、抗原定性検査 (3,903 件)、抗原定量検査 (5,417 件) 実施しています。実習生の受入も実施しており、大阪医療技術専門学校 1 名、大阪行岡医療専門学校 2 名、日本医療学院専門学校 1 名、関西医療大学 2 名、森ノ宮医療大学 1 名の指導をしました。

【診療・部署実績】

2022 年度実績

安静心電図 (5,788 件)、心エコー (3,775 件)、腹部エコー (4,448 件)、乳腺エコー (957 件)、頸部エコー (913 件)、甲状腺エコー (338 件)、肺機能 (1,774 件)、脳波 (431 件)、外来採血 (35,439 件)、細胞検査 (2,103 件)、組織検査 (5,377 件)、一般細菌 (10,076 件)、結核菌培養 (533 件)、結核菌同定 (5 件)、微生物検出検査 (24,103 件)、生化学検査 (1,152,729 件)、血清検査 (148,255 件)、一般検査 (25,110 件)、血液検査 (226,248 件)

◆医療技術部 臨床工学部門

【部署概要】

臨床工学部門では、心臓カテーテル検査や血液浄化、人工呼吸器・ME 機器管理業務、ペースメーカー業務、脳神経モニタリング、手術室業務、CPAP 導入説明、医療機器安全研修を行っています。24 時間体制をとっており、緊急カテーテル検査や緊急透析、ME 機器トラブル対応をしています。

【診療・部署体制】

臨床工学技士：9 名

【特色・トピックス】

血液浄化業務：菌球透析を中心に副瘻ろ過やその他特殊血液浄化を施行しています。
人工呼吸器業務：人工呼吸器のセッティングやトラブル対応、病棟ラウンド時に使用点検を実施しています。
心臓カテーテル業務：心臓カテーテル検査では、血管内超音波エコーの操作・解析や IABP やポリグラフ、ペースメーカーの操作、記録を行っています。
ME 機器管理業務：輸液・シリンジポンプなどの医療機器の中央管理を実施しています。清掃、点検を行っているため故障や破損の早期発見ができ安全かつ清潔な医療機器を提供しています。また、院内で報告される医療機器の大半の異常は、院内点検・修理で対応できるため、医療機器修理費用の削減と提供までの時間短縮ができます。
医療機器安全研修の実施：医療機器の安全使用のため、年 2 回の医療機器安全研修を開催しています。
ペースメーカー外来：外来に来られる患者のペースメーカー点検を実施しています。
手術室業務：手術室に 2 名が配属しており、機械出し・機器管理業務を行っています。

【診療・部署実績】

心臓カテーテル検査 106件、 PCI 63件、 EVT 35件

ペースメーカー植え込み

新規 19件、交換 2件、 PM点検 185件

血液浄化

HD・HDF 24件、 PMX 2件、 CHDF 40件、 血漿交換 15件

腹水濾過 12件

頭蓋骨形成 5件

脳神経モニタリング 26件

機器管理

ME 機器日常点検 14,029台、 ME 機器定期点検 1,077台、 院内修理・トラブル対応 333件

手術業務

直接介助 835件、間接介助 349件

CPAP

導入 13件、解析 199件

◆医療技術部 リハビリテーション部門

【部署概要】

KHS リハビリテーション科の急性期部門として心臓疾患、脳血管疾患、様々な疾患後の廃用症候群、運動器疾患、呼吸器疾患、がん関連疾患などリハ医師が必要と判断するあらゆる患者様に急性期リハビリテーションを実施している。また法人内の回復期、生活期のステージにおいても質の高いリハビリテーションをシームレスに提供できるよう多根脳神経リハビリテーション病院、多根第二病院、多根介護老人保健施設てんぼざんと密に連携を図り、迅速な情報提供及び情報のフィードバックの徹底を常に心がけている。

【診療・部署体制】

リハビリテーション科専門医 1名

理学療法士 14名

作業療法士 1名

言語聴覚士 2名

リハ助手 1名

受付事務 2名

【特色・トピックス】

リハ医師の指示のもと理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士が早ければ入院当日から適宜対応する。また患者さんの回復に応じて可能であればリハビリテーションセンターで実施し早期退院に努めている。

整形外科の手術後やスポーツ整形外来にて主治医がリハビリテーションを必要と判断した場合には外来リハビリテーションを実施している。

【診療・部署実績】

実施延べ人数									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入院	1,848	1,824	1,616	1,757	1,807	1,865	1,941	1,889	2,125
外来	740	693	847	772	755	714	740	761	758
合計	2,588	2,517	2,463	2,529	2,562	2,579	2,681	2,650	2,883
	1月	2月	3月	合計					
	1,962	1,954	2,046	22,634					
	679	671	758	8,888					
	2,641	2,625	2,804	31,522					
入院疾患別延べ人数									
	人数	%							
心大血管リハビリ	1,572	6.94							
脳血管リハビリ	10,382	45.86							
廃用症候群リハビリ	2,037	8.99							
運動器リハビリ	6,631	29.29							
呼吸器リハビリ	1,918	8.47							
がんリハビリ	94	0.41							
合計	22,634								

◆医療技術部 栄養管理部門

【部署概要】

患者自身の回復力を高め、疾病治療に貢献することを目的として、個々の病状にあわせた適正な栄養量の食事を提供。また治療の一環として患者に食生活に関する知識や技術を習得させ、栄養状態の改善、疾病の治療、増悪や再発の防止に役立たせる指導を行っています。

【診療・部署体制】

病院:管理栄養士 5 名

入院患者の栄養管理、入院・外来の栄養指導・栄養相談、給食管理など食事・栄養に関する業務を実施。

入院は一人あたり 1～2 病棟受け持ち、栄養指導、摂取不良等の栄養相談、嗜好・食事アレルギー等の確認実施。

外来の栄養指導は予約制となっているが当日予約も対応。

栄養サポートチーム(NST)は NST 専任 2 名が 2 チームに分かれて活動。

日清医療食品:24 名 (管理栄養士、栄養士、調理師、調理員) 給食業務委託

多くの治療食、摂食・嚥下障害や安静度に合わせた食事形態、

アレルギー・嗜好、ケモ・緩和ケア等様々な病態に合わせた食事に対応。

毎月イベントメニュー、ご当地メニューなど全食種で実施。

【特色・トピックス】

5 名の管理栄養士で入院患者の栄養管理、入院外来の栄養指導・栄養相談、委託給食管理など食事・栄養に関する業務を実施

栄養サポートチーム(N S T)、褥瘡、感染制御、クリニカルパス、災害 WG、緩和ケア、ACP など各種チーム医療に参加

早期栄養介入加算算定開始 (2022 年 8 月～)

褥瘡管理の栄養評価入力開始(2022 年 4 月～)

給食業務は日清医療食品に委託、朝夕のベットのサイド配膳

食事摂取不良の患者様には個別対応食を開始

救急部屋(E ルーム)での食事対応

感染患者の食事対応

濃厚流動食の見直し

経腸栄養オーダーシステムの改良

食札に病室・ふりがなを追記

嗜好調査に google form QR コード導入

2 大学からの臨地実習 2 名×2 クール受入れ

NST 実地修練の 7 名受入れ

施設間ローテーション実施

クリニカルパス見直し

糖尿病食の見直し

【診療・部署実績】

診療実績（件数）

2022

入院時食事療養費 I		192,768
内訳	入院時食事療養費1	171,020
	入院時食事療養費2	21,748
	食堂加算	82,604
	特別食加算	71,258
	特別食加算率	37%
栄養食事指導		
個人 栄養 指導	入院（初回）	793
	入院（2回目以降）	197
	外来（初回）	207
	外来（2回目以降）	577
糖尿病透析予防指導管理料		0
栄養サポートチーム加算		839
早期栄養介入加算（早期/EN）		616 / 289
栄養管理		
栄養介入件数		5,328
栄養管理計画書作成		13
退院時サマリー作成		4

個別栄養食事指導内訳（件）

	入院	外来
糖尿病	229	489
高血圧	136	54
脂質異常症	5	86
心疾患	141	20
腎疾患	38	31
高尿酸血症	0	5
肝疾患	41	59
上部消化管	77	5
下部消化管	54	9
膵疾患	32	8
がん	165	43
嚥下	15	6
低栄養/摂取不良	53	1
貧血	2	2

2022年度行事食

	イベントメニュー	ご当地メニュー
4月	お花見ご膳	鹿児島県郷土料理
5月	こどもの日	埼玉県郷土料理
6月	あじさいご膳	宮崎県郷土料理
7月	七夕 土用の丑の日	沖縄県郷土料理
8月	お盆	和歌山県郷土料理
9月	敬老の日・お月見	
10月	創立記念・ケーキ	鳥取県郷土料理
11月	勤労感謝	長野県郷土料理
12月	クリスマス、冬至、年越しそば	
1月	お正月	
2月	節分	宮城県郷土料理
3月	ひなまつり	愛知県郷土料理

※旬のフルーツ適宜提供

◆医療安全管理部

【部署概要】

・医療安全管理体制の確保及び推進のために、副院長を委員長とした医療安全管理委員会を設置している。医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に、発生した原因究明のための調査と分析、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を職員へ周知している。

・主な業務内容としては、

- ① インシデント・アクシデントレポートの収集、分析及び管理
 - ② 医療上の事故等、防止策の立案、実施及び評価
 - ③ マニュアルの策定等
 - ④ 現場の実地点検等
 - ⑤ 医療安全に関する調査、注意喚起
 - ⑥ 全死亡事例の把握と医療事故調査・支援センターへの報告について必要性の確認
 - ⑦ 医療安全に係る患者相談
- である。

【診療・部署体制】

- ・医療安全管理体制加算 I
- ・医療安全対策地域連携加算 I（2018～）連携病院：加算 I ・多根眼科記念病院
加算 II ・多根第 2 病院
加算 I ・社会医療法人愛仁会千船病院（2021 年度～）
- ・医療安全管理部の構成
医療安全管理部長:医師
医療安全管理者：看護師
医薬品安全管理者：薬剤師
事務局

【特色・トピックス】

1. インシデント・アクシデントレポートの分析及び対策等の検討
2. 医療安全ラウンド
3. 医療安全推進委員会の開催（年 12 回）
4. 医療安全管理委員会の開催（年 12 回）
5. 医療安全推進担当者活動支援
6. 医療安全研修の開催（年 12 回）
7. 医療安全対策・運営会議（週 1 回）
8. 医療安全対策地域連携加算
9. 市西支部医療安全交流会の参加（年 3 回）
10. 病院実習学生オリエンテーション
11. 年間計画の医療安全研修以外のトピックス医療安全研修の開催
12. 医療安全管理マニュアルの改訂
13. 医療安全情報・学会・院外研修・医療安全ニュース等の情報発信

【診療・部署実績】

- ・2022年度インシデントレポート総報告件数：1,934件
 - ①インシデントレポート報告件数：1,696件
 - ②アクシデント報告件数：24件
 - ③その他の報告件数：213件
- ・医療安全研修会（年13回集合、e-ラーニング *新人看護師集合研修含む）
 - 4月 新入職医療安全集合研修「医療安全総論・各論」「個人情報管理の取扱い」
 - 5月「医療安全管理体制」「個人情報の取扱い」「開示に耐えうる記録（裁判事例より）」
 - 6月 医療安全の歴史と現在、心理的安全性
 - 6月 新人看護師研修「インシデントレポートの書き方」
 - 7月 放射線障害防止について、造影剤アレルギーについて
 - 8月 手術・処置・検査時における安全管理
 - 9月 「栄養・ドレーン・チューブ類における安全管理、気切カニューレ抜去」
 - 10月 正しく使用できていますか？身近な医療機器」
 - 11月 MRI 磁場による事故防止」
 - 12月 アナフィラキシーについて
 - 12月 新人看護師集合研修「医療安全フォローアップ」「KYT」
 - 1月 「チームで取り組む転倒・転落予防」
 - 2月 「薬剤と安全管理」

◆感染制御部

【部署概要】

総合病院内における院内感染発生の抑止、感染症診断と治療の適正化、外部から院内への感染症伝播阻止のために、院内感染対策委員会(ICC)、実活動チームである院内感染制御チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)およびICC下部組織である感染リンクスタッフ会を中心として、感染制御全般の活動を行っている。

【診療・部署体制】

医師3名、看護師1名、薬剤師3名、臨床検査技師1名、事務部1名（2020年8月より）の体制

1. 感染制御チーム(Infection Control Team)

医療関連感染防止対策を迅速かつ円滑に推進実施する期間として感染制御チーム（以下、ICT）を設置している。感染制御対策に関する情報収集、監視、教育、啓発、指導、及び介入の役割を担い、感染制御対策のための組織横断的な活動を行っている。

2. 抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team)

抗菌薬適性使用に関する事例を検討するために抗菌薬適正使用支援チーム(以下、AST)を置き、その組織及び運営に関し必要な事項を定め、抗菌薬の適正使用支援の推進を目的とし活動を行っている。

【特色・トピックス】

1. 院内感染対策委員会の開催（月1回、緊急時は随時開催）
2. 感染リンクスタッフ会の開催（月1回）
3. ICT講習会の開催（年3回）
4. ICTニュースの発行（月1回）
5. AST&ICTラウンド（週1回）
6. ASTカンファレンス（週1回）
7. 各部署における感染症（とくに院内感染）発生状況の把握
8. 臨床検体からの病原体（とくに薬剤耐性菌）分離状況の把握
9. 病原体の薬剤感受性動向の把握
10. 抗菌薬適正使用のチェックと指導
11. 消毒薬適正使用のチェックと指導
12. 手指・器材の洗浄・消毒実施状況の把握と指導
13. 感染性医療廃棄物の処理状況の把握と指導
14. 国内外における感染症流行状況の把握と感染防止対策の徹底
15. 感染症に関する各種届出の指導と確認
16. 健康保険感染防止対策加算病院連携
17. 講師派遣
 - ・大阪府病院協会看護専門学校 講師 宮崎 悠
 - ・介護と医療の連携スキルアップフェア 講師 宮崎 悠
 - ・出張研修 亀望会コスモス苑 講師 宮崎 悠

【診療・部署実績】

各科の診療実績を参照

1. 院内感染対策委員会（ICC）

病院長、感染症専門医師（ICD）、感染管理認定看護師、抗菌化学療法認定薬剤師、内科系・外科系部長各1名、救急科部長、看護部長、医療安全管理者、細菌検査室臨床検査技師、薬局長、管理栄養士、洗浄・消毒・滅菌部門責任者、事務部長により構成され、2022年度は12回開催。緊急時開催はなし。

2. 感染リンクスタッフ会

各病棟・手術室ならびに外来看護師、各病棟ならびに外来担当薬剤師、入院患者をもつ診療科の医師、リハビリ科1名、放射線科1名により構成され、2022年度は11回開催。

3. ICT講習会

全職員を対象に、感染制御に必要な事項の教育・啓蒙を目的として開催。

2022年度は年3回、以下のテーマについて開催した。

- 1月：当院におけるAST活動について
- 2月：災害における感染症とその対策
- 3月：手術部位感染について

4. ICTニュース発行（毎月1回）

毎月1回ICTニュースの発行を行い、総合病院全職員に周知を図るとともに、国内外の感染症に関しての新しい情報を提供している。なお、ICTニュースに記載した事項は、院内感染制御マニュアルの一部として利用することになっている。

2022年度、各号に掲載した特別記事内容は以下のとおりである。

- 4月(246号)：災害における感染症とその対策
- 5月(236号)：新型コロナウイルス感染症 Q&A
- 6月(237号)：ASTとは？

7月(238号)：バンコマイシン注におけるTDMの改訂

8月(239号)：濃厚接触者の待機期間について

9月(240号)：細菌による感染症について

11月(241号)：抗菌薬使用届の変更について

12月(242号)：バンコマイシン投与中の血中濃度測定について

1月(243号)：災害における感染症

2月(244号)：ほぼ3年ぶりのインフルエンザ到来！

～インフルエンザとCOVID-19のツインでミックに気をつけよう！

3月(245号)：抗インフルエンザ薬について/COVID-19の感染症法の位置づけについて

5. 医療関連感染サーベイランス

1) 中心ライン関連血流感染サーベイランス

中心ラインの中で、中心静脈カテーテルが挿入されている患者を対象とし、カテーテル関連、血流感染の調査としてサーベイランスを実施している。サーベイランスの結果は、院内での公表とする。

2) 手術部位感染サーベイランス

消化器外科手術を受けた患者を対象とし、手術部位感染サーベイランスを実施している。サーベイランスの結果は、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録しており、院内での公表とする。

6. 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動について

2022年度抗菌薬適正使用支援チーム(AST)より支援を行った症例は249症例、医師からのコンサルテーションは51症例であった。これらの症例のうち、ASTの提案受入れ率は82%であった。

7. 感染リンクスタッフ環境ラウンド(毎週水曜日)

医師、看護師、薬剤師、コメディカル5～6名で構成されたチーム(A～Fの6チーム)により、各科外来、放射線治療棟、カテ室、アンギオ室、各外来、各病棟、検査科、薬剤部など病院内の部署を7つに振り分けて、ラウンドを実施した。ラウンドでのチェック項目は、廃棄物の適正処理、薬品管理、流し台の環境整備、処置カートの整理整頓、材料・滅菌物、滅菌鋼製小物の保管、擦式アルコール製剤の設置と管理、ハンドソープの設置と管理、救急カートの整理整頓、汚物室内の環境、リネンの取り扱い、薬品保冷庫の管理、ナースিংカート内の整理整頓、経管栄養ボトルの管理、棚の整理整頓等。

8. 手洗い技術演習

10月3日～22日(土日祝日除く)の13日間、総合病院全職員を対象として、石けんと流水による手洗いの技術演習を実施した。668名が参加し、参加率92%であった。

9. 感染防止対策加算連携

・I対I連携：大野記念病院・育和会記念病院との相互評価実施。(1月31日、2月6日)

・I対II連携：なにわ生野病院・富永病院カンファレンス開催。(6月6日、8月29日、10月31日、1月30日)

◆卒後臨床研修センター

【部署概要】

初期臨床研修及び後期研修医の総合窓口業務を行っている。主な業務は初期臨床研修に関することで、人材の募集から始まり、見学、採用、実習、修了までの事務的な部分を行う。たすき掛け病院との書類のやりとりや厚生労働省に提出する各種書類の作成、協力病院との橋渡しを行い、初期臨床研修に関する一連の事務手続きも全て行っている。

【診療・部署体制】

卒後臨床研修センター長：森 琢児（副院長）
課長：川本 博
事務スタッフ1名（専従）

【特色・トピックス】

昨年度はコロナ禍で開催が中止されていた対面での合同説明会が復活した。

【参加実績】2022年7月3日 レジナビフェア in インテックス大阪（ブース訪問者58名）

2023年2月18日 近畿地区臨床研修病院説明会（ブース訪問者27名）

【開催実績】2022年7月9日 多根総合病院説明会（参加学生17名）

9月初旬に初期臨床研修医の採用試験を行い、10月のマッチング結果で7名がフルマッチした。

【診療・部署実績】

2022年度は、募集人員7名に対して受験者は20名。倍率は2倍以上で、マッチングシステムにより7名が決定した。1年次研修医は10名（大阪公立大学医学部附属病院からのたすき掛け2名、奈良県立医科大学附属病院からのたすきがけ1名含む）、2年次研修医は7名。全員が無事に初期臨床研修を終え、3名が専攻医（後期研修医）として当院に残った。また、1年目にたすきがけ研修医として当院で研修した2名が専門研修を希望した。当院の臨床研修の実績が評価され、大阪府下臨床研修病院68病院中6位の高評価を得た。都市部の定員が減らされる中、7名から8名の定員増となった。

◆事務部

【部署概要】

事務部は経営目的を達成するため、病院管理及び経営に必要な業務を担う。

医事課・カスタマーリレーション課・管理課から構成される。

【部署体制】

【医事課】

患者の受診受付及び予約業務、保険登録・確認業務、診療報酬明細書を作成・請求業務、保険外診療請求業務
患者負担金未収管理及び督促業務、査定・減点对策業務、関連会議・委員会出席、施設基準・診療報酬管理業務
医事関連システム対応業務、各種書類作成管理業務・スキャナー業務、診療報酬請求統計データ作成業務
外来・病棟の事務的運営業務、介護保険意見書受付及び請求業務、予防接種実施集計業務、健康診断実施集計業務
救急受付業務、電話交換業務、医事紛争対応業務、患者対応業務、カルテ開示対応業務
ボランティア受入対応業務、CS(カスタマーサービス)業務

【カスタマーリレーション課】

入院患者の慢性期・回復期などの医療機関への転院調整ならびに施設への入所・帰所調整業務
自宅退院支援業務および関係機関との連絡・調整業務

経済的問題、社会資源、療養生活に関する相談（入院・外来）業務
紹介患者の受入（検査・外来・セカンドオピニオン・入院）に関するコーディネート業務
返書業務
専門医療機関、高次医療機関への転院・受診調整業務
開放型病院に関する業務（登録医総会や各科セミナーなどの企画・運用）
かかりつけ医の紹介（逆紹介）業務
介護保険サービス等に関する相談業務
ケアプラン（介護サービス計画）の立案
関係機関との連絡調整業務
給付管理・請求業務

【管理課】

➤システム係

総合・リハビリ病院の電子カルテ基幹マスタ管理業務
総合・リハビリ病院の電子カルテヘルプデスク業務
総合・リハビリ病院の部門システム連携管理業務

➤診療情報管理室

入院診療録の管理
診療録量的監査業務・診療録質的監査管理業務
DPC データ作成・修正・提出に関する業務
各種患者数集計業務
診療録貸出業務、診療録開示用資料出力業務
院内がん登録に係わる業務の全般
退院サマリー記載状況管理業務
病歴登録業務、入院患者疾病統計業務
電子カルテ新規文書作成・修正・管理業務、スキャナー画像データ削除業務
入院基本 DB（入院基本 DB）送達業務

➤総務・庶務・図書係

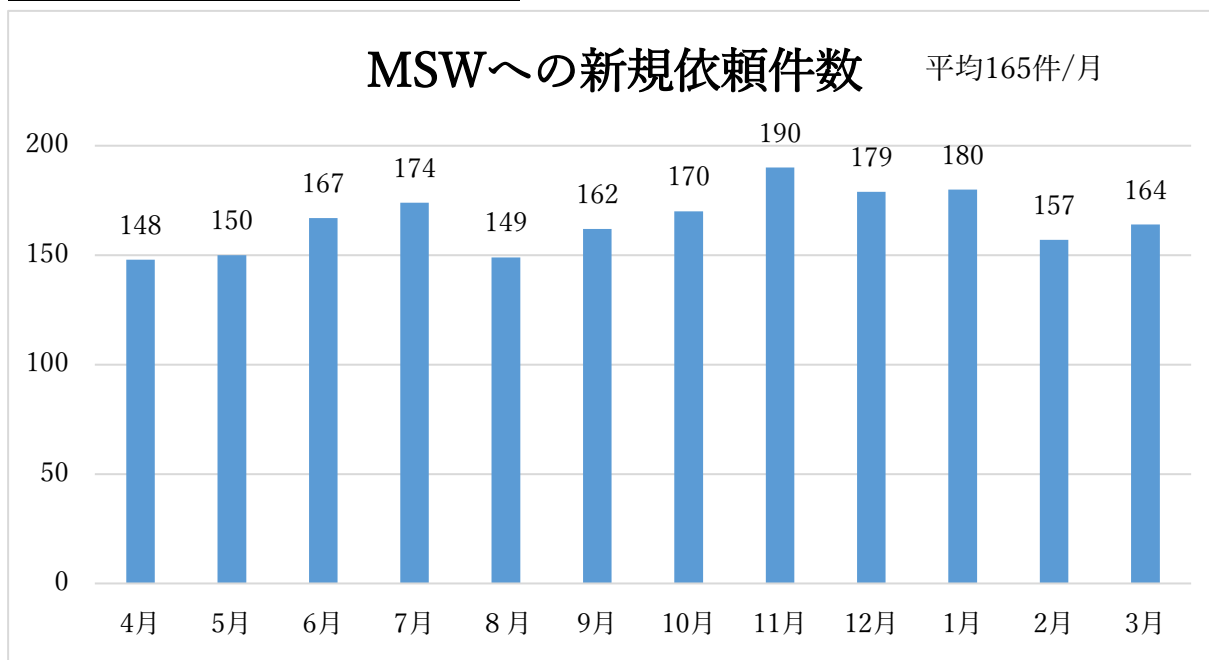
事務部長秘書業務、文書管理業務、部門・部署間調整業務、診療費未収督促対応業務（回収困難事案）
災害拠点病院関連業務、災害対応業務、災害対応物品管理業務、感染制御部関連業務、衛生管理業務
医療安全推進業務、防火防災関連業務、施設・設備管理業務、行政対応窓口業務（感染・災害補助金関連）
新規業務の業務フロー構築、総務業務一般（人事・給与・経理を除く）
図書室に関する管理運営業務全般（図書館司書の管理含む）、健康講座の開催等、各部署専門分野以外の業務全般

【特色・トピックス】

- ・延べ入院患者数 91,336 人
- ・延べ外来患者数 132,866 人
- ・平均在院日数 9.5 日
- ・病床稼働率 90.9%
- ・救急搬送件数 9,855 件
- ・手術件数 3,703 件
- ・内視鏡件数 10,711 件

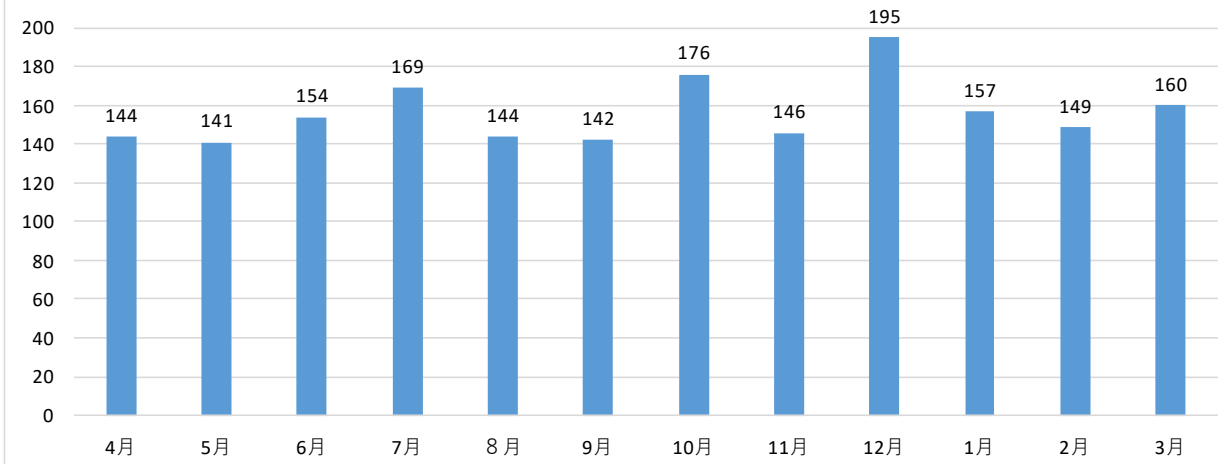
【診療・部署実績】

初回件数	2022 年度	2021 年度
内科	1,394	1,673
循環器内科	488	439
消化器内科	1,216	1,026
外科	1,236	1,339
緩和ケア科	121	245
脳神経内科	477	472
脳神経外科	418	401
血管内治療科	14	-
泌尿器科	468	443
整形外科	712	578
形成外科	394	310
耳鼻いんこう科	347	320
皮膚科	173	150
小児科	47	106
婦人科	17	19
放射線治療科	125	166
歯科	14	3
検査依頼	1,594	1,765
合計	9,255	9,455

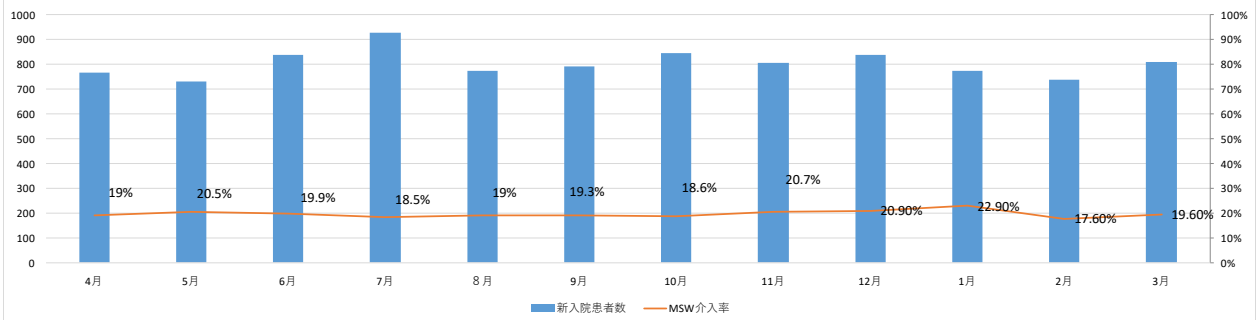


退院数

平均156件/月



2022年度新入院患者数の推移とMSW介入率



【各科医師スタッフ 資格一覧】

施設： 多根総合病院

部署： 内科

役職・氏名	資格
感染症内科部長 高宮 みさき	日本内科学会認定内科医・指導医/日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 日本感染症学会感染症専門医/日本エイズ学会認定医/日本内科学会認定総合内科専門 ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター
副部長 新田 洋介	日本内科学会認定内科医・指導医/日本内科学会認定総合内科専門医 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医/日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医 内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医
特別顧問 三木 文雄	医学博士/日本内科学会認定内科医・指導医/日本感染症学会感染症専門医 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医/日本化学療法学会抗菌薬臨床試験指導医 ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター

施設： 多根総合病院

部署： 循環器内科

役職・氏名	資格
副院長 内科統括部長 瓦林 孝彦	大阪市立大学医学博士/日本内科学会認定内科医・指導医/日本循環器学会循環器専門医 日本超音波医学会超音波専門医/日本心臓病学会特別正会員(FJCC) 日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医/日本高血圧学会高血圧指導医 日本循環器学会近畿地方会評議員/日本内科学会近畿地方会評議員/大阪市立大学臨床教授 兵庫医科大学非常勤講師
部長 福田 圭祐	日本内科学会認定内科医・指導医/日本循環器学会循環器専門医/日本心血管インターベン ション治療学会専門医/経カテーテル大動脈弁植え込み術指導医(Sapien シリーズ)/経皮的 僧帽弁閉鎖不全修復術(MitraClip)実施医/リードレスペースメーカー植え込み実施医/日本臨 床栄養代謝学会 TNT 研修会修了/ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター
副部長 齋田 天	日本内科学会認定内科医・指導医/日本循環器学会循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医
医長 山崎 玲子	日本内科学会認定内科医/日本循環器学会循環器専門医
塚本 拓也	日本内科学会認定内科医
田中 佐和	日本内科学会認定内科医

施設： 多根総合病院

部署： 消化器内科

役職・氏名	資格
消化器内科部長 内視鏡センター部長 急性腹症科部長 医局長 浅井 哲	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医/日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 日本がん治療認定機構がん治療認定医/日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本腹部救急医学会腹部救急認定医/身体障害者福祉法指定医（肝臓機能障害） 日本消化器内視鏡学会近畿支部評議員/日本消化器病学会近畿支部評議員 日本腹部救急医学会評議員
副部長 赤峰 瑛介	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医/日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医/日本消化管学会胃腸科専門医 ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター
副部長 藤本 直己	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医/日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医/日本腹部救急医学会腹部救急認定医 大腸ステント安全手技研究会世話人
副部長 一ノ名 巧	日本内科学会認定内科医/日本消化器病学会専門医/日本消化器内視鏡学会専門医 大阪 DMAT
医長 中尾 栄祐	日本内科学会認定内科医/日本消化器病学会専門医/日本消化器内視鏡学会専門医 日本ヘリコバクター学会 H.pylori（ピロリ菌）感染症認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
松尾 健司	日本内科学会認定内科医/日本消化器病学会専門医
神保 仁美	日本内科学会認定内科医/日本消化器病学会専門医/日本消化器内視鏡学会専門医
大館 秀太	日本内科学会認定内科医/日本消化器病学会専門医
高木 康宏	日本内科学会認定内科医

施設： 多根総合病院

部署： 脳神経内科

役職・氏名	資格
学術顧問 柳原 武彦	日本神経学会専門医・指導医/日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医 日本内科学会認定医・指導医
部長 青池 太志	日本神経学会専門医・指導医/リハビリテーション科専門医/日本内科学会認定医・指導医
部長 白石 翔一	日本神経学会専門医・指導医/日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医 日本内科学会認定医・指導医/日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
副部長 吉田 智子	日本神経学会専門医・指導医/日本脳神経血管内治療専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医/日本内科学会認定医・総合内科専門医
医長 北村 絵未	日本神経学会専門医/日本内科学会認定医
医長 田中 なつき	日本神経学会専門医/日本内科学会認定医・総合内科専門医

医員 江並 朋美	日本神経学会専門医/日本内科学会認定医
医員 小玉 大地	日本専門医機構認定内科専門医/日本神経学会専門医/脳血栓回収療法実施医

施設： 多根総合病院

部署： 外科

役職・氏名	資格
院長 丹羽 英記	大阪大学医学博士/日本外科学会専門医・指導医/日本消化器外科学会認定医 消化器がん外科治療認定医/日本内視鏡外科学会技術認定医・評議員 日本短期滞在外科研究会常任幹事・世話人/近畿外科学会評議員 関西ヘルニア研究会名誉世話人/大阪臨床外科医会副会長
副院長 がん診療センター長 西 敏夫	大阪大学医学博士/日本外科学会指導医・専門医/日本乳癌学会指導医・専門医 日本乳癌検診学会評議員/日本臨床外科学会評議員/近畿外科学会評議員 マンモグラフィー読影認定医
日帰り手術センター長 上村 佳央	大阪大学医学博士/日本外科学会指導医・専門医/日本ヘルニア学会監査・評議員
副院長 外科統括部長 小川 淳宏	大阪大学医学博士/大阪市立大学臨床教授/日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医・評議員/日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本乳癌学会乳腺認定医/日本がん治療認定医機構暫定教育医・がん治療認定医 身体障害者福祉法指定医（小腸・膀胱・直腸機能障害）/臨床外科学会評議員 近畿外科学会評議員/大腸ステント安全手技研究会世話人
外科部長 高橋 弘	東京女子医科大学医学博士/日本外科学会認定臨床医/日本消化器外科学会認定医 リハビリテーション医学会認定医/日本医師会認定産業医
外科部長 柄池 真規子	厚生労働省認定精神保健指定医/日本精神神経学会精神科専門医・指導医・認知症診療医 日本認知症学会認知症専門医/厚生労働省認定認知症サポート医 日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医/日本医師会認定産業医
副院長 外科部長 小川 稔	大阪大学医学博士/日本外科学会専門医/日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医/日本消化器病学会専門医/近畿外科学会評議員
副院長 外科部長 臨床研修センター長 森 琢児	大阪大学医学博士/大阪市立大学臨床教授/日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医/消化器がん外科治療認定医/食道学会食道科認定医 消化器内視鏡学会専門医指導医/乳癌学会認定医/マンモグラフィー読影資格医 がん治療認定医機構暫定教育医・がん治療認定医/近畿外科学会評議員 京都女子大学非常勤講師
外科副部長 栄養科部長 廣岡 紀文	日本外科学会専門医/日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医/日本静脈経腸栄養学会認定医

肝胆膵外科部長 外科副部長 細田 洋平	日本外科学会指導医・専門医/日本消化器外科学会指導医・専門医 日本肝臓学会肝臓専門医/日本腹部救急医学会腹部救急認定医 ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医/日本肝胆膵外科学会評議員 近畿外科学会評議員
---------------------------	--

施設： 多根総合病院

部署： 腫瘍内科

役職・氏名	資格
副部長 がん治療センター副センター長 岡田 佳也	東北大学医学博士/東北大学臨床研究推進センター非常勤講師 東北大学東北臨床研究審査委員会技術専門員 日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医・指導責任者 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医/日本肉腫学会認定肉腫専門医・認定指導医 日本緩和医療学会認定緩和医療認定医・研修指導者/日本消化管学会認定胃腸科認定医 難病指定医/小児慢性特定疾病指定医/がん診療に関わる医師に対する緩和ケア研修会修了

施設： 多根総合病院

部署： 整形外科

役職・氏名	資格
顧問 福田 眞輔	日本整形外科学会名誉会員/日本リウマチ学会功労会員/日本脊椎脊髄病学会名誉指導医 滋賀医科大学名誉教授/大阪大学医学博士/日本脊椎関節炎学会顧問
顧問 本城 昌	日本整形外科学会整形外科専門医/日本リウマチ学会専門医 日本手外科学会指導医・専門医/日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会リウマチ医/日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医 日本整形外科学会認定リハビリ医/日本リウマチ財団登録医/滋賀医科大学医学博士 大阪市西区医師会理事
部長 永井 宏和	日本整形外科学会整形外科専門医/日本体育協会公認スポーツドクター 大阪市立大学臨床准教授 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由に関する指定医師) ドクターオブドクターズネットワーク優秀専門臨床医 (T-PEC)
副部長 松村 健一	日本整形外科学会整形外科専門医/日本体育協会公認スポーツドクター 日本ハンドボール協会医科学委員/日本オリンピック委員会強化スタッフ オリックスバファローズチームドクター/堺ブレイザーズチームドクター 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由に関する指定医師)
医長 城内 泰造	日本整形外科学会整形外科専門医 NTT ドコモ ラグビー レッドハリケーンズチームドクター オリックスバファローズチームドクター 全米公認アスレティックトレーナー (NATA-ATC) 全米スポーツ医学協会公認パフォーマンスエンハンスメント スペシャリスト (NASM-PES) /日本スポーツ協会公認スポーツドクター

<p>医 長 八木 桂太郎</p>	<p>日本整形外科学会整形外科専門医/日本整形外科学会認定リハビリ医 日本整形外科学会認定スポーツ医 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由に関する指定医師)</p>
-----------------------	--

施 設： 多根総合病院

部 署： 脳神経外科

役職・氏名	資 格
<p>きつこう会理事長 多根 一之</p>	<p>日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医 大阪医科大学医学博士/難病指定医</p>
<p>副院長 神経・脳卒中センター長 小川 竜介</p>	<p>日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会技術指導医/大阪医科薬科大学非常勤講師(元講師) 大阪公立大学臨床教授/臨床修練指導医 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由に関する指定医師) 難病指定医/大阪医科大学医学博士/大阪医科薬科大学臨床教育教授</p>
<p>脳神経外科統括部長 ICU 部長 住岡 真也</p>	<p>日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医 日本頭痛学会頭痛専門医/大阪医科大学医学博士/難病指定医 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由に関する指定医師)</p>
<p>脳神経外科部長 三木 義仁</p>	<p>日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医 日本頭痛学会頭痛専門医/日本神経内視鏡学会技術認定医 日本脳卒中の外科学会技術指導医/臨床研修指導医/日本医師会認定産業医 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由に関する指定医師) 難病指定医/ACLS プロバイダー/日本静脈経腸栄養学会 TNT 修了医 大阪医科大学医学博士</p>
<p>脳神経外科医長 西居 純平</p>	<p>日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/日本脳神経血管内治療専門医/難病指定医</p>

施 設： 多根総合病院

部 署： 小児科

役職・氏名	資 格
<p>医 長 中村 寛子</p>	<p>小児科専門医</p>

施 設： 多根総合病院

部 署： 泌尿器科

役職・氏名	資 格
<p>部 長 細川 幸成</p>	<p>日本泌尿器科学会指導医・専門医/日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(腎機能障害、ぼうこう・直腸機能障害に関する指定医師)</p>

施設： 多根総合病院

部署： 麻酔科

役職・氏名	資格
部長 棚橋 識生	厚労省許可麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔指導医
副部長 宋 よんす	厚労省許可麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔認定医
副部長 坂口 豪	厚労省許可麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔指導医/専門医共通機構認定麻酔専門医
副部長 三馬 葵	厚労省許可麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔指導医
副部長 中川 由紀子	厚労省許可麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔指導医/専門医共通機構認定麻酔科専門医
医長 柴田 梢	厚労省許可麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔科専門医

施設： 多根総合病院

部署： 放射線科

役職・氏名	資格
部長 松尾 良一	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
部長 濱澤 良将	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本核医学会専門医/P E T核医学認定医/大阪市立大学医学部博士
副部長 池本 美奈子	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導医/マンモグラフィー読影認定医
医長 谷口 明繁	日本医学放射線学会放射線診断専門医

施設： 多根総合病院

部署： 放射線治療科

役職・氏名	資格
センター長 中島 俊文	京都大学医学博士/放射線治療専門医
部長 石井 健太郎	大阪市立大学医学博士/放射線治療専門医
副部長 森本 英之	大阪市立大学医学博士/放射線治療専門医

施設： 多根総合病院

部署： 救急科（ER）

役職・氏名	資格
顧問 安部 嘉男	日本救急医学会専門医・指導医

部長 柳 英雄	日本専門医機構認定救急科専門医
医長 朴 將輝	日本専門医機構認定救急科専門医
医長 升井 淳	日本救急医学会専門医/日本外科学会専門医

施設： 多根総合病院

部署： 中央検査科

役職・氏名	資格
病理診断部長 橋本 和明	認定病理医/細胞診専門医・指導医/臨床検査管理医
吉原 渡	認定病理医

施設： 多根総合病院

部署： リハビリテーション科

役職・氏名	資格
部長 黒田 百合	リハビリテーション科専門医

施設： 多根総合病院

部署： 看護部

資格（看護師・准看護師の資格以外）	人数
認定看護管理者	1
MBA（経営学修士）	1
病院機能評価機構サーベイヤー	1
介護支援専門員	6
がん看護専門看護師	1
急性・重症患者看護専門看護師	1
老人看護専門看護師	1
集中ケア認定看護師	1
クリティカルケア認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	1
がん性疼痛看護認定看護師	1
感染管理認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	1
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1
認知症看護認定看護師	1
がん放射線療法看護認定看護師	1
特定行為看護師	16

大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会修了	19
3学会合同 呼吸療法認定士	5
保健師	11
救急救命士	7
介護福祉士	1
ICLS インストラクター	5
MCLS インストラクター	1
JPTEC インストラクター	1
エンディングコンサルタント	1
医療安全管理者	8
重度訪問介護士	1
養護教諭1種免許	2
養護教諭2種免許	1
精神保健福祉士	1
メディカルハーブコーディネーター	1
日本アロマ環境協会アロマセラピー検定2級	1
アロマセラピー1級	1
心電図検定1級	1
心電図検定3級	10
日本DMAT隊員	6
大阪DMAT隊員	6
コミュニケーションスキルアップ検定	1
日本短期滞在外科手術研究会認定DSコーディネーター	2
関西ストーマケア講習会修了者	3
認知症ケア学会 認知症ケア専門士	1
診療情報管理士	2
院内がん登録実務中級者	1
医師事務作業補助	2
リンパドレナージュセラピスト	1
第一種衛生管理者	2
文部省認定 秘書検定2級	1
実務技能検定協会 秘書検定3級	1
文部科学省後援秘書技能検定2級	1
医療秘書検定2級	1
医療秘書技能検定準1級	1
社会福祉主事	1
日本教育カウンセラー協会 ピアヘルパー	1
社会福祉主事任用資格	1

トリアーシナース	2
腎不全療養指導士	1
保育士	1
秘書士称号認定	1
小学校2種教員免許	1
幼稚園教諭第二種	1
歯科医療事務管理士	1
オムツフitter2級・3級	1
周術期管理チーム認定	1
中学校二種免許(家庭科)	1
手話技能検定4級	1
インターベーションエキスパートナース	1
日本糖尿病療養指導士	1
ピンクリボンアドバイザー	2
医療・介護・薬局事務検定	1
診療報酬請求事務能力認定	7
ホスピタルコンシェルジュ	1
医師事務作業補助(ドクターズクラーク)	3
医療事務検定試験1級	1
保険請求事務技能検定1級	1
中学校・高等学校音楽科第一種教員免許	1
ヘルパー1級・3級	1
ホームヘルパー2級	5
食育インストラクター	1
調理師	1
美容師	1

施設： 多根総合病院

部署： 放射線診断科

資格	人数
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師	4名
日本X線CT認定技師	3名
画像等手術支援認定診療放射線技師	2名
日本磁気共鳴専門技師	1名
日本救急撮影認定技師	1名
医療情報技師	1名
臨床実習指導教員	3名
放射線管理士	2名
Ai認定診療放射線技師	1名

施設： 多根総合病院

部署： 放射線治療科

資格	人数
放射線治療専門放射線技師	2名
医学物理士	2名
放射線治療品質管理士	2名
第一種放射線取扱主任者	1名
医療情報技師	1名

施設： 多根総合病院

部署： 薬剤部

資格	人数
抗菌化学療法認定薬剤師	3名
がん薬物療法認定薬剤師	1名
外来がん治療認定薬剤師	1名
N S T 専門療法士	3名
治験コーディネーター	4名
認定実務実習指導薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	2名
日病薬病院薬学認定薬剤師	6名
日本糖尿病療養指導士	2名
公認スポーツファーマシスト	1名
日本DMAT/大阪DMAT	1名

施設： 多根総合病院

部署： 中央検査科

資格	人数
臨床工学技士	1名
糖尿病療養指導士	2名
N S T 専門療法士	1名
健康食品管理士	1名
二級臨床検査士血液学	1名
二級臨床検査士臨床化学	1名
二級臨床検査士循環生理	1名
二級臨床検査士微生物学	2名
認定輸血検査技師	2名
緊急臨床検査士	2名
心電図検定 1 級	1名
超音波検査士	2名

施設： 多根総合病院

部署： 栄養科

資格	人数
N S T 専門療法士	3 名
糖尿病療養指導士	3 名
病態栄養認定管理栄養士	3 名
がん病態専門管理栄養士	1 名
フードスペシャリスト	1 名

施設： 多根総合病院

部署： 臨床工学科

資格	人数
呼吸療法認定士	1 名
心血管インターベンション技師	1 名
ME 第 2 種	5 名
ME 第 1 種	1 名
医療機器情報コミュニケーター (MD I C)	2 名

施設： 多根総合病院

部署： リハビリテーション科

資格	人数
3 学会合同呼吸療法認定士	6 名
認定理学療法士 (呼吸)	1 名
認定理学療法士 (循環器)	1 名
福祉住環境コーディネーター2 級	1 名

【学会発表】

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：内科

会名称	第238回日本内科学会近畿地方会		
発表テーマ	経過中に脳浮腫を合併した糖尿病ケトアシドーシスの1例		
日時	2022/12/10	発表者	安藤加奈子、新田洋介、福田圭祐、白石翔一、瓦林孝彦
場所	Web		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：消化器内科

会名称	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW)		
発表テーマ	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術における2本の弾性牽引糸を内蔵した先端フォードの治療成績		
日時	2022/10/27-30	発表者	浅井 哲, 小林潤一, 橋村友哉, 久松健人, 高木康宏 伊藤孝助, 大館秀太, 神保仁美, 松尾健司, 一ノ名巧 赤峰瑛介, 藤本直己
場所	博多		
会名称	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	食道癌術後吻合部閉塞に対しダブルスコープ法と穿刺針を用いて 食道ステントの留置に成功した1例		
日時	2022/11/5	発表者	田川南斗, 藤田裕真, 小林潤一, 久松健人, 松尾健司 一ノ名巧, 赤峰瑛介, 藤本直己, 森 琢児, 浅井 哲
場所	Web		
会名称	第238回日本内科学会近畿地方会		
発表テーマ	出血を契機に発見された十二指腸脂肪腫の1例		
日時	2022/12/10	発表者	林百合子, 神保仁美, 島 佳弘, 小林潤一, 久松健人 藤田裕真, 高木康宏, 赤峰瑛介, 藤本直己, 浅井 哲
場所	Web		
会名称	日本消化器病学会近畿支部第118回例会		
発表テーマ	胃癌術後11年で腹膜播種再発した1例		
日時	2023/1/21	発表者	赤松大祐, 大館秀太, 島 佳弘, 小林潤一, 久松健人 藤田裕真, 高木康宏, 神保仁美, 松尾健司, 中尾栄祐 一ノ名巧, 藤本直己, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	京都		
会名称	日本消化器病学会近畿支部第118回例会		
発表テーマ	十二指腸憩室炎の後腹膜穿破により膵周囲膿瘍を形成した一例		
日時	2023/1/21	発表者	紫藤健太, 藤本直己, 島 佳弘, 小林潤一, 久松健人 藤田裕真, 高木康宏, 大館秀太, 神保仁美, 松尾健司 中尾栄祐, 一ノ名巧, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	京都		

会名称	第 19 回日本消化管学会総会学術集会		
発表テーマ	大腸 EMR 後に菌血症をきたした一例		
日時	2023/2/3-5	発表者	友安勲充, 浅井 哲, 赤峰瑛介, 中尾栄祐, 高木康宏
場所	東京		
会名称	次世代消化器内科の会～癌と凝固～		
発表テーマ	胃癌が血栓性微小血管障害症 (TMA) を惹起した可能性が示唆された剖検例		
日時	2023/2/17	発表者	赤峰 瑛介
場所	大阪		
会名称	日本内科学会近畿支部主催第 239 回近畿地方会		
発表テーマ	Over-The-Scope Clip で閉鎖した経皮経食道胃管 (PTEG)穿孔の 1 例		
日時	2023/3/4	発表者	小林潤一, 島 佳弘, 久松健人, 藤田裕真, 高木康宏 中尾栄祐, 一ノ名巧, 藤本直己, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	高血圧診療を考える会		
発表テーマ	基調講演【座長】		
日時	2023/3/7	発表者	一ノ名 巧
場所	大阪		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	WON に対して経消化管的経鼻持続洗浄療法が著効した一例		
日時	2023/3/9-10	発表者	島 佳弘, 松尾健司, 小林潤一, 久松健人, 藤田裕真 一ノ名巧, 藤本直己, 赤峰瑛介, 浅井 哲, 松尾良一
場所	沖縄		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery の術後長期的予後の後方視的検討		
日時	2023/3/9-10	発表者	久松健人, 島 佳弘, 小林潤一, 藤田裕真, 松尾健司 中尾栄祐, 一ノ名巧, 赤峰瑛介, 藤本直己, 浅井 哲
場所	沖縄		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	シアノアクリレートで止血しえた十二指腸静脈瘤破裂の一例		
日時	2023/3/9-10	発表者	小泉 葵, 一ノ名巧, 小林潤一, 久松健人, 藤田裕真 高木康宏, 大館秀太, 松尾健司, 神保仁美, 藤本直己 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	沖縄		

【学会発表】

施設：多根総合病院

部署：脳神経内科

会名称	一般社団法人日本神経学会第122回近畿地方会		
発表テーマ	てんかん発作を合併したDown症候群の2例		
日時	2022/7/30	発表者	國方桃代、白石翔一、田中なつき、吉田智子、北村絵未 江並朋美、小玉大地、柳原武彦
場所	大阪府豊中市		
会名称	一般社団法人日本神経学会第124回近畿地方会		
発表テーマ	一酸化炭素中毒による遅発性脳症をきたした1例		
日時	2023/3/5	発表者	仲辻有佑、白石翔一、小玉大地、田中なつき、吉田智子 黒田百合、奥田佳延、青池太志、柳原武彦
場所	大阪府豊中市		
会名称	STROKE2023		
発表テーマ	症候性内頸動脈起始部閉塞が自然再開通し、頸動脈ステント留置術をおこなった3例		
日時	2023/3/16-3/18	発表者	吉田智子
場所	神奈川県横浜市		
会名称	STROKE2023		
発表テーマ	両側延髄内梗塞で異なる転帰を辿った2例		
日時	2023/3/16-3/18	発表者	田中なつき
場所	神奈川県横浜市		

【学会発表】

施設：多根総合病院

部署：外科

会名称	第20回日本ヘルニア学会学術総会		
発表テーマ	支部推薦演題1 「腹壁ヘルニア」【座長】		
日時	2022/6/3-4	発表者	上村佳央
場所	横浜		
会名称	第20回日本ヘルニア学会学術総会		
発表テーマ	パネルディスカッション4 「術式多様化時代におけるヘルニア診療の教育」【コメンテーター】		
日時	2022/6/3-4	発表者	上村佳央
場所	横浜		
会名称	第118回日本精神神経学会学術総会		
発表テーマ	帯状疱疹後神経痛に処方されていたデュロキセチン中止により SSRI離脱症候群を認めた一例		
日時	2022/6/16-18	発表者	柄池真規子
場所	博多		
会名称	第30回日本乳癌学会学術総会		
発表テーマ	抗HER2療法にて肝転移がcCRとなり乳房切除し、		

	維持療法休薬後も cCR を維持している HER2 陽性転移乳癌の一例		
日時	2022/6/30-7/2	発表者	西 敏夫, 森 琢児, 岡田佳也, 小川淳宏
場所	横浜		
会名称	PEACE 研修 in 八尾徳洲会総合病院		
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修		
日時	2022/7/30	発表者	柄池真規子
場所	八尾徳洲会総合病院		
会名称	第 644 回大阪外科集談会		
発表テーマ	原発性肝細胞癌術後、上行結腸転移の一例		
日時	2022/9/10	発表者	新井勇輝, 細田洋平, 今中 孝, 實近侑亮, 小澤慎太郎 林田一真, 加藤弘記, 廣岡紀文, 森 琢児, 小川 稔 小川淳宏, 西 敏夫, 上村佳央, 丹羽英記
場所	Web		
会名称	第 4 回石切生喜病院 緩和ケア研修会		
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修		
日時	2022/11/5	発表者	柄池真規子
場所	石切生喜病院		
会名称	第 84 回日本臨床外科学会総会		
発表テーマ	臨床症状を呈する分類不能型肝細胞腺腫に対して腹腔鏡下肝部分切除術を施行した一例		
日時	2022/11/24-26	発表者	林田一真, 細田洋平, 丹羽英記, 西 敏夫, 小川淳宏 小川 稔, 森 琢児, 廣岡紀文
場所	博多		
会名称	第 84 回日本臨床外科学会総会		
発表テーマ	地域救急病院における働き方改革における取り組みについて 【総会特別企画】		
日時	2022/11/24-26	発表者	森 琢児
場所	博多		
会名称	第 16 回関西ヘルニア研究会		
発表テーマ	代表世話人講演 「ヘルニア新時代と関西ヘルニア研究会」【座長】		
日時	2022/12/17	発表者	上村佳央
場所	大阪		
会名称	第 646 回大阪外科集談会		
発表テーマ	腸重積で発症した成人消化管重複症の一切除術		
日時	2023/1/21	発表者	山本貴大, 小川 稔, 今中 孝, 實近侑亮, 小澤慎太郎 林田一真, 加藤弘記, 細田洋平, 廣岡紀文, 森 琢児 小川淳宏, 上村佳央, 西敏夫, 丹羽英記, 橋本和明
場所	Web		
会名称	第 646 回大阪外科集談会		
発表テーマ	腹腔鏡下に修復した子宮広間膜穿孔ヘルニアの 1 例		

日時	2023/1/21	発表者	福田雄介, 廣岡紀文, 今中 孝, 實近侑亮, 林田一真 小澤慎太郎, 加藤弘記, 細田洋平, 森 琢児, 小川 稔 小川淳宏, 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記
場所	Web		
会名称	医療・介護従事者のための ACP 実践研修会		
発表テーマ	多職種によるシンポジウム【パネリスト】		
日時	2023/1/28	発表者	柄池真規子
場所	大阪		
会名称	第 9 回多根総合病院 緩和ケア研修会		
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修		
日時	2023/2/18	発表者	柄池真規子
場所	多根総合病院		
会名称	第 95 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	胃癌の類洞播種による肝不全により死亡した一例		
日時	2023/2/23-25	発表者	小澤慎太郎, 森 琢児, 今中 孝, 實近侑亮, 林田一真 加藤弘記, 細田洋平, 廣岡紀文, 小川 稔, 小川淳宏 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記
場所	札幌		
会名称	第 95 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	成人女性に発症した胃軸捻転症の 2 例		
日時	2023/2/23-25	発表者	實近侑亮
場所	札幌		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	横行結腸癌イレウスに対して大腸ステント留置後に穿孔性虫垂炎を発症した一例		
日時	2023/3/9-10	発表者	小澤慎太郎, 藤本直己, 今中 孝, 實近侑亮, 林田一真 加藤弘記, 浅井 哲, 細田洋平, 廣岡紀文, 小川淳宏 丹羽英記
場所	沖縄		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	魚骨による小腸憩室穿通の一例		
日時	2023/3/9-10	発表者	林田一真, 細田洋平, 今中 孝, 實近侑亮, 小澤慎太郎 加藤弘記, 廣岡紀文, 森 琢児, 小川 稔, 小川淳宏 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記
場所	沖縄		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	膵頭十二指腸切除術後早期の門脈狭窄に対して 経皮経肝門脈ステント留置術を施行した一例		
日時	2023/3/9-10	発表者	今中 孝, 實近侑亮, 林田一真, 小澤慎太郎, 加藤弘記 廣岡紀文, 細田洋平, 小川 稔, 森 琢児, 小川淳宏 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記
場所	沖縄		

【学会発表】 施設：多根総合病院

部署：整形外科

会名称	第 49 回日本肩関節学会		
発表テーマ	Neviaser 変法を併用した 2 重東烏口鎖骨靭帯再建術		
日時	2022/10/7-8	発表者	永井 宏和, 中島 亮, 松村 健一, 米田 真悟, 城内 泰造 今井 晋二
場所	神奈川県横浜市		
会名称	第 59 回日本プロ野球トレーナー協会研究会		
発表テーマ	プロ野球投手に対する注射療法		
日時	2022/12/1-2	発表者	松村 健一
場所	宮城県仙台市		
会名称	第 38 回 SUMS 骨・関節懇話会		
発表テーマ	中手骨骨頭骨折の治療経験		
日時	2023/3/25	発表者	野田 澄人
場所	京都府京都市		

【学会発表】 施設：多根総合病院

部署：脳神経外科

会名称	第 36 回日本微小脳神経外科解剖研究会		
発表テーマ	Transpterygoid approach を行った錐体骨先端部コレステロール肉芽腫の一例		
日時	2022/7/2	発表者	小川竜介、天津久郎、西居純平、三木義仁、住岡真也 柳川伸子、多根一之
場所	東京都		
会名称	第 20 回関西脳神経外科研究会		
発表テーマ	Translabyrinthine approach にて摘出した Endolymphatic sac tumor の 1 例		
日時	2022/9/10	発表者	西居純平、小川竜介、三木義仁、住岡真也、多根一之
場所	大阪府大阪市		
会名称	日本脳神経外科学会第 81 回学術総会		
発表テーマ	両側 CCF 治療後に判明した Ehlers-Danlos 症候群の 1 例		
日時	2022/9/28~10/1	発表者	西居純平
場所	神奈川県横浜市		
会名称	日本脳神経外科学会第 81 回学術総会		
発表テーマ	悪性 glioma における fluorescein sodium および 5-ALA 併用による術中蛍光診断の有用性		
日時	2022/9/28~10/1	発表者	三木義仁、香月里奈、西居純平、住岡真也、柳川伸子 小川竜介、多根一之
場所	神奈川県横浜市		

会名称	第 29 回一般社団法人日本神経内視鏡学会		
発表テーマ	副鼻腔炎による鼻性視神経症を呈した乳癌転移の 1 例		
日時	2022/11/3~11/4	発表者	小川竜介
場所	長野県		
会名称	STROKE2023		
発表テーマ	サラセミアと RCVS を認めた、破裂末梢性 LSA 動脈瘤に対して母血管閉塞にて治癒した 1 例		
日時	2023/3/16~3/18	発表者	西居純平
場所	神奈川県横浜市		
会名称	STROKE2023		
発表テーマ	偶発性低体温症を合併した小脳出血の一症例		
日時	2023/3/16~3/18	発表者	三木義仁、西居純平、住岡真也、柳川伸子、小川竜介 多根一之
場所	神奈川県横浜市		

【学会発表】

施設：多根総合病院

部署：泌尿器科

会名称	第 250 回日本泌尿器科学会関西地方会		
発表テーマ	大量血小板輸血を要した去勢抵抗性前立腺癌の 1 例		
日時	2022/6/25	発表者	橘 進彰、飯田孝太、伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成 藤本清秀
場所	神戸大学医学部		
会名称	第 72 回日本泌尿器科学会中部総会		
発表テーマ	当科における敗血症性 DIC に対する遺伝子組み換えトロンボモジュリンの有効性についての検討		
日時	2022/10/6/-10/8	発表者	橘 進彰、飯田孝太、伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成 藤本清秀
場所	和歌山県民文化会館		
会名称	第 251 回日本泌尿器科学会関西地方会		
発表テーマ	偶発的に発見された副腎血管腫性内皮嚢胞の 1 例		
日時	2022/10/29	発表者	橘 進彰、飯田孝太、伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成 藤本清秀
場所	神戸国際会議場		
場所	奈良		

【学会発表】

施設：多根総合病院

部署：耳鼻咽喉科

会名称	第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会および学術講演会		
発表テーマ	内視鏡下経蝶形骨アプローチドレナージ術を施行した 錐体尖コレステリン肉芽腫の 1 例		
日時	2022/05	発表者	天津久郎、小川竜介、竹宮由美、 亀井優嘉里、大野 峻、金本紀亜
場所	神戸		
会名称	ENT expert meeting		

発表テーマ	当院での経鼻内視鏡手術の取り組み -日帰り手術, 経鼻頭蓋底手術-		
日時	2022/09	発表者	天津久郎
場所	大阪		
会名称	第 81 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会		
発表テーマ	メニエール病に類似した臨床経過を辿った内リンパ嚢腫瘍の 1 例		
日時	2022/11	発表者	大野 崇、小川竜介、金本紀亜、天津久郎

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：形成外科

会名称	第 65 回日本形成外科学会総会・学術集会		
発表テーマ	健側下眼瞼複合組織移植による眼瞼大欠損の再建 オキュラーサーフェス保護の観点から		
日時	2022/04/20	発表者	大山葵
場所	大阪		
会名称	第 40 回日本頭蓋顎顔面学会学術集会		
発表テーマ	ボイスプロテーシス留置後の気道食道シャント開大、誤嚥に対する大腿筋膜移植シャント縮小術		
日時	2022/11/18	発表者	橋本昌也
場所	愛知		
会名称	第 34 回日本義眼症手術学会		
発表テーマ	眼瞼下垂症における Dry Eye related Quality of life Score (DEQS)の有用性		
日時	2023/02/11	発表者	橋本昌也
場所	新潟県		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：放射線診断部

会名称	第一回中部 GECT ユーザー会		
発表テーマ	当院の脳神経外科手術シミュレーション画像作成 -イメージコンテスト 2021 から現在-		
日時	2022/12/08	発表者	夏日 勇人
場所	Web		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：放射線治療部

会名称	放射線治療専門放射線技師認定機構主催 令和 4 年度実機講習会 (治療計画)		
発表テーマ	CT シミュレーション / organ motion / 前処置 / PTV マージン		
日時	2022/11/26	発表者	川守田 龍
場所	森ノ宮医療大学		
会名称	第 17 回九州放射線医療技術学術大会		

	(第 71 回日本放射線技術学会九州支部学術大会/第 68 回九州放射線技師学術大会)		
発表テーマ	新生涯学習システムについて		
日時	2022/11/19	発表者	川守田 龍
場所	アクロス福岡 4F 国際会議場		
会名称	日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会		
発表テーマ	高リスク群前立腺癌に対する VMAT を用いた全骨盤照射の治療成績		
日時	2022/11/10-12	発表者	竹村 玲子
場所	広島		
会名称	日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会		
発表テーマ	当院の前立腺 SBRT における intra-fractional motion の評価		
日時	2022/11/10-12	発表者	中坂 優太
場所	広島		
会名称	第 38 回日本診療放射線技師学術大会 治療分科会 シンポジウム		
発表テーマ	タスク・シフト/シェアの推進 『前立腺癌の IGRT』 ～臨床的意義から読み解く位置照合のポイント～		
日時	2022/09/17	発表者	川守田 龍
場所	神戸国際会議場		
会名称	第 14 回 四国放射線治療研究ネットワークセミナー		
発表テーマ	『放射線治療におけるタスクシフトについて』～IGRT における一次照合～		
日時	2022/08/20	発表者	川守田 龍
場所	Web		
会名称	放射線治療あすなる会 放射線治療計画セミナー		
発表テーマ	「乳癌術後放射線療法の基礎知識」		
日時	2022/08/06	発表者	川守田 龍
場所	Web		
会名称	放射線治療あすなる会 放射線治療計画セミナー		
発表テーマ	「Eclipse を使用した全乳房照射と PMRT の治療計画」		
日時	2022/08/06	発表者	川守田 龍
場所	Web		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：救急科

会名称	第 25 回日本臨床救急医学会総会学術集会		
発表テーマ	新型コロナウイルス感染拡大第四波における救急外来死亡例の検討		
日時	2022/05/26	発表者	升井淳
場所	大阪国際会議場		

会名称	日本内科学会第 237 回近畿地方会		
発表テーマ	薬剤過剰内服により縮瞳を伴った意識障害の 1 例		
日時	2022/09/10	発表者	川崎健生
場所	千里ライフサイエンスセンター		
会名称	第 59 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	非特異的な主訴で来院し子宮留膿腫と診断された 3 例		
日時	2023/03/09	発表者	川崎健生
場所	沖縄コンベンションセンター		
会名称	第 28 回日本災害医学会総会・学術集会		
発表テーマ	COVID-19 流行前後でのマスクギャザリングにおける TTTHR の比較		
日時	2023/03/10	発表者	甲斐健太郎
場所	盛岡市民文化ホール		
会名称	第 28 回日本災害医学会総会・学術集会		
発表テーマ	DMAT 自動待機基準改定による当院への影響		
日時	2023/03/11	発表者	柳英雄
場所	盛岡市民文化ホール		
会名称	第 125 回近畿救急医学研究会		
発表テーマ	総腸骨動脈十二指腸瘻によって出血性ショックをきたし、死亡した一例		
日時	2023/03/11	発表者	赤松大祐
場所	奈良春日野国際フォーラム豊		
会名称	第 125 回近畿救急医学研究会		
発表テーマ	COVID-19 感染症を契機に副腎クリーゼを生じた一例		
日時	2023/03/18	発表者	菰潤萌
場所	奈良春日野国際フォーラム豊		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：腫瘍内科・緩和ケア内科

会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	The analysis of anamorelin about the relation the efficacy and QOL		
日時	2023/3/16-18	発表者	Yoshinari Okada

場 所	福 岡		
会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	A case of metastatic cancer with chemotherapy refractory showing disease control for long duration by medroxyprogesterone acetate		
日 時	2023/3/16-18	発表者	Naoki Shibata, <u>Yoshinari Okada</u>
場 所	福 岡		
会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	A case of small cell lung cancer diagnosed with brain metastasis that resulted in long-term survival by appropriate treatment containing Atezolizumab		
日 時	2023/3/16-18	発表者	Rina Kazuki, Yoshihito Miki, <u>Yoshinari Okada</u>
場 所	福 岡		
会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	Pure Squamous Cell Carcinoma of Breast which got Long Duration Response and Survival by Sequential Chemotherapy with Combination of Paclitaxel + Bevacizumab, and S-1 Under Limited Treatment Strategy: A Case Report		
日 時	2023/3/16-18	発表者	Mariko Mani, <u>Yoshinari Okada</u> , Toshio Nishi
場 所	福 岡		
会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	The activity and issue of specialized outpatient with certified oncopharmacist		
日 時	2023/3/16-18	発表者	Takashi Sonoda, <u>Yoshinari Okada</u> , Yuka Iwai, Miwa Shibagaki, Kasumi Kakuta, Akemi Morimoto
場 所	福 岡		
会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	Report on the activities of 'Medical Oncology Team' at our hospital		
日 時	2023/3/16-18	発表者	Yuka Iwai, <u>Yoshinari Okada</u> , Takashi Sonoda, Miwa Shibagaki, Kasumi Kakuta, Akemi Morimoto
場 所	福 岡		

【学会発表】 施 設：多根総合病院 部 署：看護部

会名称	第 24 回日本救急看護学会学術集会		
発表テーマ	緊急入院及び緊急治療入室患者の救急外来滞在時間に向けた取り組み		
日 時	2022/10/14	発表者	光藤 久乃
場 所	東京都江東区有明 TFT ホール		
会名称	公益社団法人 大阪府看護協会 第 10 回大阪府看護学会		
発表テーマ	病棟看護師の観察力や危機察知能力の変化 －急変カンファレンスの取り組みを通して－		
日 時	2022/11/26	発表者	上野 桜
場 所	大阪府看護協会		

会名称	第37回 日本がん看護学会学術集会		
発表テーマ	母親の乳癌を伝えた後の思春期の子どもの反応と患者の子どもへの関わり		
日時	2023/02/26	発表者	植村 未奈子
場所	パソフィコ横浜ノーステ ーマ		
会名称	第6回日本リンパ浮腫学会総会		
発表テーマ	がん終末期患者の在宅療養を可能にした要因 ～圧迫療法を用いたリンパ浮腫症状緩和に向けた取り組み～		
日時	2023/03/04	発表者	好岡 文葉
場所	大阪公立大学		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：医療技術部 栄養管理部門

会名称	第26回 日本病態栄養学会 年次学術集会		
発表テーマ	胃・食道癌術後ペラグラ・脂肪肝を発症した患者介入の1例		
日時	2023/01/13	発表者	山本 啓太
場所	京都国際会館（オンライ ン）		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：医療技術部 中央検査部門

会名称	第71回日本医学検査学会		
発表テーマ	当院の採血教育の現状		
日時	2022/5/21-22	発表者	吉村 由美
場所	A T Cハイアットリージ ェンシー		
会名称	第71回日本医学検査学会		
発表テーマ	診療支援システム導入		
日時	2022/5/21-22	発表者	福谷 吏輝丸
場所	A T Cハイアットリージ ェンシー		
会名称	第72回日本病院学会		
発表テーマ	診療支援システム導入		
日時	2022/7/7-8	発表者	福谷 吏輝丸
場所	島根県民会館・サンラポ ーむらくも・興雲閣		

【学会発表】 施設：多根総合病院 部署：薬剤部

会名称	第20回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	がん関連認定薬剤師による専門外来の現状と今後の課題		
日時	2023/03/16	発表者	其田 学士

場 所	マリンメッセ福岡		
会名称	第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	当院でのがん薬物療法チームの活動報告		
日 時	2023/03/18	発表者	岩井 裕香
場 所	マリンメッセ福岡		

【執筆・論文】

【執筆・論文】

施 設： 多根総合病院

部 署： 消化器内科

掲載誌名	多根総合病院医学雑誌
タイトル	

	十二指腸憩室炎の後腹膜穿破により形成された膵周囲膿瘍に対して 保存的治療を選択し寛解した1例		
著者	紫藤健太, 藤本直己, 島 佳弘, 小林潤一 久松健人, 藤田裕真, 高木康宏, 大舘秀太 神保仁美, 松尾健司, 中尾栄祐, 一ノ名巧 赤峰瑛介, 浅井 哲	掲載号 掲載年等	12(1), 55-58 2023/3

【執筆・論文】

施設： 多根総合病院

部署： 外科

掲載誌名	Ann Gastroenterol Surg		
タイトル	Impact of the COVID-19 pandemic on colorectal cancer surgery in Japan : Clinical Study Group of Osaka University— A multicenter retrospective study		
著者	Miyo M, Mizushima T, Nishimura J, Hata T, Tei M, Miyake Y, Kagawa Y, Noura S, Ikenaga M, Danno K, <u>Ogawa A</u> , Chinen Y, Hata T, Miyoshi N, Takahashi H, Uemura M, Yamamoto H, Murata K, Doki Y, Eguchi H	掲載号 掲載年等	2022/8 doi:10.1002/ags3.12616
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	胃癌の類洞播種による肝不全により死亡した1例		
著者	小澤慎太郎, 森 琢児, 今中 孝, 實近侑亮, 林田一真, 加藤弘記, 細田洋平, 廣岡紀文 小川 稔, 高橋 弘, 小川淳宏, 上村佳央 西 敏夫, 丹羽英記	掲載号 掲載年等	2023/3 12(1), 47-50
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	横行結腸癌イレウスに対して大腸ステント留置後に穿孔性虫垂炎を発症した1例		
著者	林田一真, 小川淳宏, 今中 孝, 實近侑亮 小澤慎太郎, 廣岡紀文, 細田洋平, 小川 稔, 森 琢児, 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記	掲載号 掲載年等	2023/3 12(1), 51-54
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	緩和ケア病棟入院中の胃癌患者に「嘔み出し食」を提供した1例		
著者	野口佳子, 荒金和歌子, 山本啓太, 宮口真美 成見阿紀, 岡田佳也, 柄池真規子, 廣岡紀文	掲載号 掲載年等	2023/3 12(1), 71-76

【執筆・論文】

施設： 多根総合病院

部署： 整形外科

掲載誌名	肩関節		
タイトル			

	過緊張をさけた鏡視下腱板修復術の術後成績－ARCR・Debeyre-patte 変法・棘下筋回転移行術の術後成績－		
著者	永井 宏和, 中島 亮, 松村 健一, 米田 真悟 城内 泰造, 今井 晋二	掲載号 掲載年等	第 46 卷, 第 2 号, p361-366
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	中手骨骨頭骨折の治療経験		
著者	野田 澄人, 八木 桂太郎, 藤原 圭, 城内 泰造, 松村 健一, 永井 宏和	掲載号 掲載年等	第 12 卷, 第 1 号, p59-62

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： 脳神経外科

掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	片頭痛診療の新たなステージ		
著者	住岡真也、西居純平、三木義仁、小川竜介 多根一之	掲載号 掲載年等	12(1):3-14, 2023

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： 泌尿器科

掲載誌名	多根医誌		
タイトル	膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法施行中に薬剤性肝障害を生じた 1 例		
著者	橘 進彰、吉田貴法、溝渕真一郎、橋村正哉 飯田孝太、豊島優多、細川幸成	掲載号 掲載年等	(11) 67-70,2022
掲載誌名	Int. J. Clin Oncol		
タイトル	First-line pembrolizumab for patients with early relapsing urothelial carcinoma after perioperative chemotherapy: a retrospective analysis of bladder cancer and upper urinary tract cancer		
著者	Nobutaka Nishimura, Makito Miyake, Takuto Shimizu, Toshihiko Matsubara, Tatsuki Miyamoto, Keichi Sakamoto, Atsushi Yamada, Yoshihiro Matsumoto, Motokiyo Yoshikawa, Kazuki Ichikawa, Chihiro Omori, Fumisato Maesaka, Yuki Oda, Keisuke Kiba, Atsushi Tomioka, Yukinari Hosokawa, Masahiro Tanaka, Takeshi Otani, Kiyohide Fujimoto	掲載号 掲載年等	27, 1733-1741,2022

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： 耳鼻咽喉科

掲載誌名	日本気管食道科学会会報		
------	-------------	--	--

タイトル	ボイスプロステシス留置後の気管食道シャント開大に対する外科的治療を行った2症例の報告		
著者	天津 久郎, 若見 暁樹, 亀井 優嘉里, 大野 峻	掲載号 掲載年等	73 卷 (2022 年) 6 号,
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	弱高気圧酸素療法による外リンパ瘻が疑われた1例		
著者	大野 峻, 神田裕樹, 金本紀亜, 天津久郎 角南貴司子	掲載号 掲載年等	12 卷 (2023 年), 1 号
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	茎状突起過長症 4 例の臨床的検討		
著者	金本紀亜, 天津久郎, 大野 峻, 寺西裕一 角南貴司子	掲載号 掲載年等	12 卷 (2023 年), 1 号

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： 形成外科

掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	副耳下腺多形腺腫の1例		
著者	建林 里佳 他	掲載号 掲載年等	第 12 卷 第 1 号 [2023 年]

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： 放射線治療部門

掲載誌名	In Vivo		
タイトル	Error Detectability of Isodose Volumes as ROIs in Prostate Intensity-modulated RT QA		
著者	Ryuta Nakahara, Ryu Kawamorita, Kentaro Ishii	掲載号 掲載年等	July-Aug 2022, 36(4), 1887~1895
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	小照射野サイズにおける MU 独立検証時の計算グリッドサイズの検討		
著者	中原 隆太, 川守田 龍, 岸本 瞬 中坂 優太, 草別 真行	掲載号 掲載年等	第 12 卷 1 号, 15~22, 2023
掲載誌名	日本放射線腫瘍学会		
タイトル	強度変調放射線治療における物理技術ガイドライン 2023		

著者	共著 川守田龍	掲載号 掲載年等	2023年2月6日
掲載誌名	Radiotherapy and Oncology		
タイトル	Establishing quality indicators to comprehensively assess quality assurance and patient safety in radiotherapy and their relationship with an institution's background		
著者	Norifumi Mizuno, Hiroyuki Okamoto, Toshiyuki Minemura, Shinji Kawamura, Naoki Tohyama, Masahiko Kurooka, Ryu Kawamori , Masaru Nakamura, Yoshinori Ito, Yoshiyuki Shioyama, Hidefumi Aoyama, Hiroshi Igaki	掲載号 掲載年等	179 (2023) 109452
掲載誌名	J Appl Clin Med Phys		
タイトル	Assessment of using a gamma index analysis for patient-specific quality assurance in Japan		
著者	Yusuke Anetai Iori Sumida, Yu Kumazak, Satoshi Kito, Masahiko Kurooka, Yoshihiro Ueda, Yuki Otani, Yuichiro Narita, Ryu Kawamori , Kazuhiko Akita, Takahiro Kato, Mitsuhiro Nakamura	掲載号 掲載年等	2022;23:e13745.

【執筆・論文】

施設： 多根総合病院

部署： 救急科

掲載誌名	Japanese Journal of Disaster Medicine		
タイトル	大阪府における酸素ステーションの概要と実績		
著者	升井淳	掲載号 掲載年等	Vol.27 suppl 2022/9
掲載誌名	日本臨床救急医学会雑誌		
タイトル	ORION を活用した病院前 12 誘導心電図伝送システムの構築		
著者	升井淳	掲載号 掲載年等	25 巻 5 号 2022/10

【執筆・論文】

施設： 多根総合病院

部署： 看護部

掲載誌名	メディカ出版「BRAIN NURSING 2022 夏季増刊」		
タイトル	ぜんぶ見える化 呼吸に異常が生じたときの対応のきほん		
著者	應本 勝美	掲載号 掲載年等	2022 年夏季増刊
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル			

	夜間緊急入院受け入れ専用病床の設置の効果 ～急性期病院一般病棟の夜勤看護師への影響について～		
著者	津谷 量哉	掲載号 掲載年等	Vol.12 No.1 2023
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	「慢性疾患の病みの軌跡」モデルを用いた高齢者の服薬支援		
著者	竹田 マミ	掲載号 掲載年等	Vol.12 No.1 2023

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： 医療技術部 中央検査部門

掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	ヘパリン投与例におけるAPTT試薬の反応性に関する検討		
著者	柏井 伸幸、森下 律子、杉山 昌晃 川住 勇、竹浦 久司	掲載号 掲載年等	第11巻 第1号 2022

【執筆・論文】 施設： 多根総合病院 部署： リハビリテーション科

掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
タイトル	インターナル・インピンジメントによりSLAP損傷、棘上筋損傷、Bennet病変が生じた大学生野球選手に対する理学療法		
著者	金井 義則、場工美由紀	掲載号 掲載年等	第12巻 第1号 2023年